



ワールドホールディングス

WORLD
HOLDINGS



Create a Sustainable World.

2023年度12月期 決算説明資料

第2四半期

2023年8月9日(水)

株式会社ワールドホールディングス

東証プライム(2429)

01

会社概要と強み

P.3

02

2023年12月期
第2四半期 決算概要

P.17

03

2023年12月期
業績見通し

P.27

04

Appendix
会社案内

P.31





01

会社概要と強み

P.3

- P.4 当社グループの存在意義
- P.5 各セグメントに繋がるパーパス
- P.6 サステナビリティへの取組
- P.7 人材教育ビジネス:領域拡大による成長
- P.8 「受託」を核にコンソーシアム・コラボレーションを展開
- P.9 人材育成と生産性改善
- P.10 コンソーシアムモデルの展開
- P.11 有力企業とのコラボレーション
- P.13 人材教育ビジネスの業績推移
- P.14 不動産:無理をしない経営
- P.15 不動産:仕入に強み、人材教育とのシナジー
- P.16 農業公園:直営4施設の再生ノウハウを活かす

世界中にあらゆる
人が**生きるカタチ**を
創造することで
人々の幸せと社会の
持続的発展を実現する

世界中の人々が
より生き活きと活躍し生活できれば
この世界はもっと幸せにあふれ、
発展し、よりよい世界になっていく

私たちの使命は
そんな生きやすく活力あふれた社会を
創っていくことです



各セグメントに繋がるパーパス

「働く」カタチ

あらゆる人々に適材適所の「仕事」を探し
 生き生きと働く喜びを感じてもらうとともに
 教育を通して人がもつ潜在能力を引き出し
 人の可能性を開花させることで
 産業の発展に貢献する

人材教育



「まちづくり」のカタチ

人が生活する上での基本となる
 快適な「街」をデザインすることで
 生き生きと生きられる環境を提供し
 自然環境・地球資源を大切にしまちづくりで
 社会に貢献する

不動産



「便利と安心安全」のカタチ

新たに登場する「IT」インフラを世に普及し
 人々に便利さを広めることで
 安心安全な生活を送れる環境を創り
 社会の豊かさに貢献する

情報通信



「未来」のカタチ

自然環境・地球資源を大切にするとともに
 未来を担う子供たちの「成長」に必要な
 育成環境を提供することで
 社会の持続的発展を下支えする

農業公園



サステナビリティへの取組

マテリアリティ(重要課題)

価値創造

存在意義

人材教育

- 多くの雇用を創出し、社会の持続的発展に貢献する
- 人材育成・質の高い教育を通し、あらゆる人の潜在能力を開花させ、個の働きがいの醸成と、社会全体の経済成長に繋げる
- 世界のものづくり産業・サービス産業を人的面で下支えするとともに、優秀な人材を輩出することで技術革新の礎を創る
- ジェンダーに拘わらず、あらゆる人が活躍できる働く場を創出する



「働く」カタチの創造

あらゆる人々に適材適所の「仕事」を探し活き活きと働く喜びを感じてもらうとともに教育を通して人がもつ潜在能力を引き出し人の可能性を開花させることで産業の発展に貢献する

不動産

- 暮らしやすい住設備を整え、あらゆる人々が安心して生活できるまちづくりを進める
- 自然環境を守り、地球資源を大切に、地域と共生したまちづくりを進める
- 持続可能な土地開発を進め、地域の環境保護に貢献する



「まちづくり」のカタチの創造

人が生活する上での基本となる快適な「街」をデザインすることで活き活きと生きられる環境を提供し自然環境・地球資源を大切にしまちづくりで社会に貢献する

情報通信

- ITインフラをはじめ、便利な機器を世に普及することで、技術革新の基盤を創るとともに、安心して安全なまちづくりを進める



「便利と安心安全」のカタチの創造

新たに登場する「IT」インフラを世に普及し人々に便利さを広めることで安心安全な生活を送れる環境を創り社会の豊かさに貢献する

農業公園

- 自然を守り、地球資源を大切に、未来を担う子供たちが健やかに成長できる環境を保つ
- 広大な土地を利用し、再生可能エネルギーの創出を模索し、気候変動への対策・地球資源の保護に貢献する



「未来」のカタチの創造

自然環境・地球資源を大切にするとともに未来を担う子供たちの「成長」に必要な育成環境を提供することで社会の持続的発展を下支えする

事業再生

- 倒産・清算を回避し、会社・従業員・家族を守る
- 事業の再生により付加価値を高め、恵まれた雇用環境をつくり、経済成長に貢献する。つくる責任つかう責任を果たす
- 起業家に安心感を与え、失敗した起業家にも再チャレンジの機会を提供する



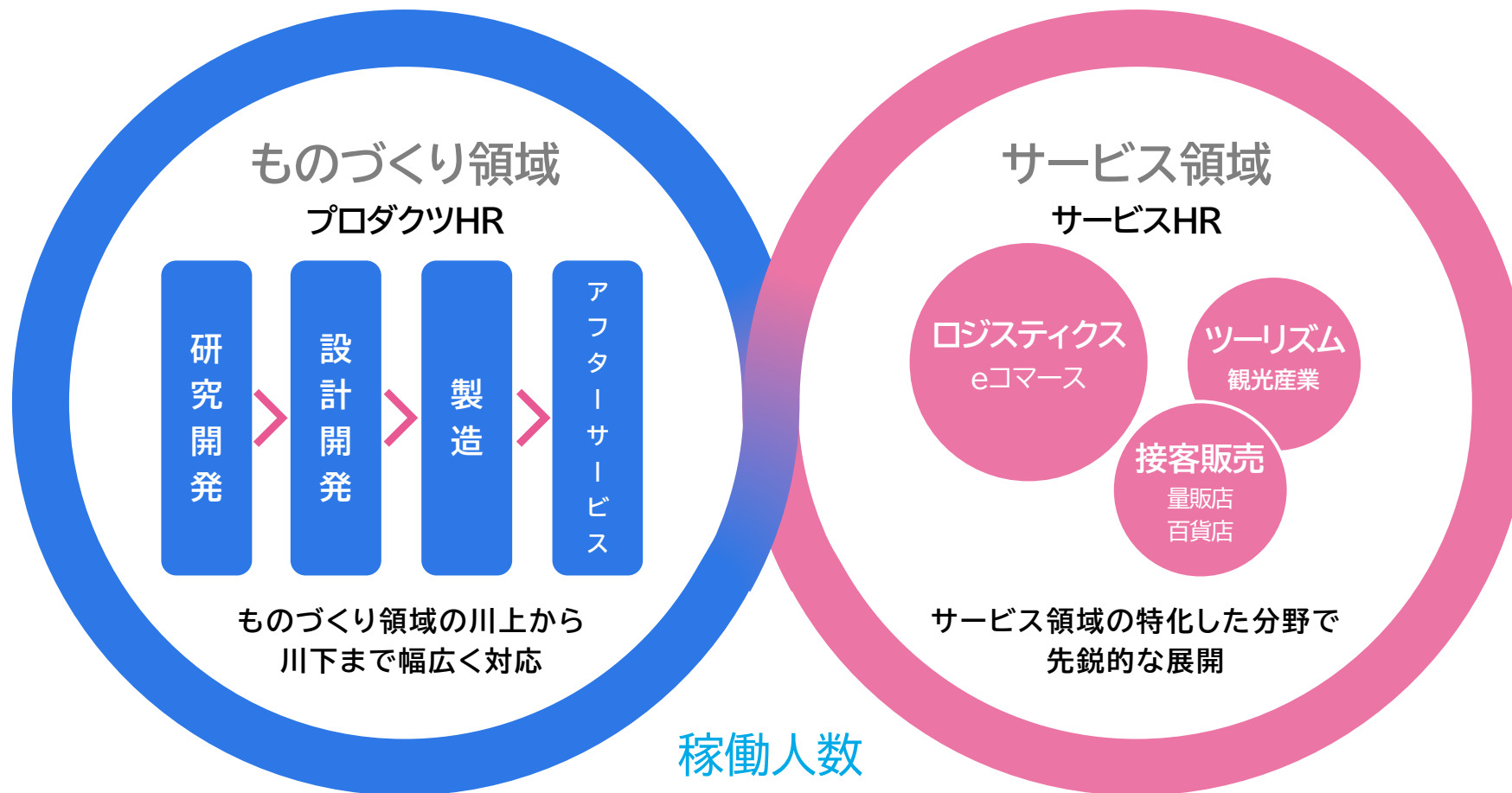
「事業を繋ぐ」カタチの創造

会社の事業を再生させることで会社を守り、付加価値を高めることで雇用環境を創り社会に貢献する

世界中にあらゆる人が活きるカタチを創造することで人々の幸せと社会の持続的発展を実現する

人材教育ビジネス：領域拡大による成長

幅広い領域をシームレスにカバーした業務受託・人材派遣



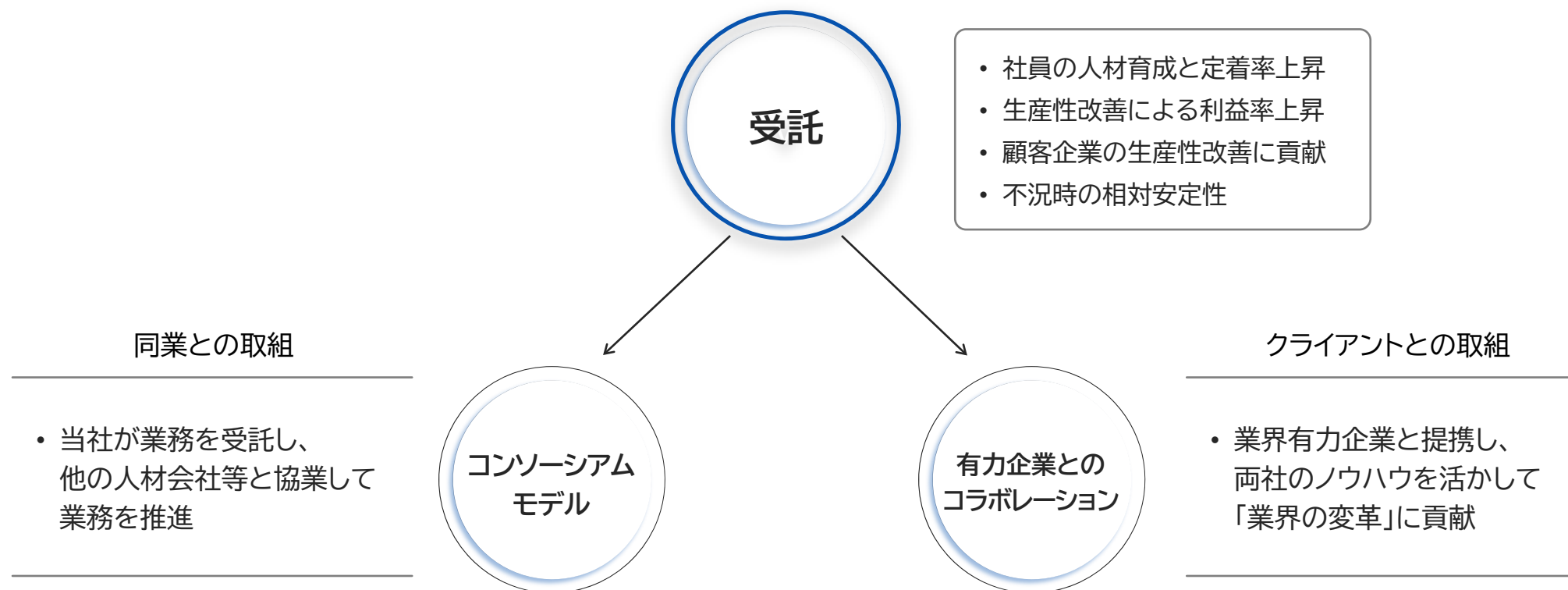
約 **37,000** 名 ※ 2023年6月末現在

「受託」を核にコンソーシアム・コラボレーションを展開

- 「受託」を核に、他の人材会社との協業、クライアントとの提携により、サステナブルな成長を目指す

Co-Sourcing
コ・ソーシング

お客様の良きパートナーとして業務にさらに踏み込み、成果を共に享受できる、進化したアウトソーシングの姿



人が生きるカタチを創造し、人々の幸せと社会の持続的発展を実現する

人材育成と生産性改善

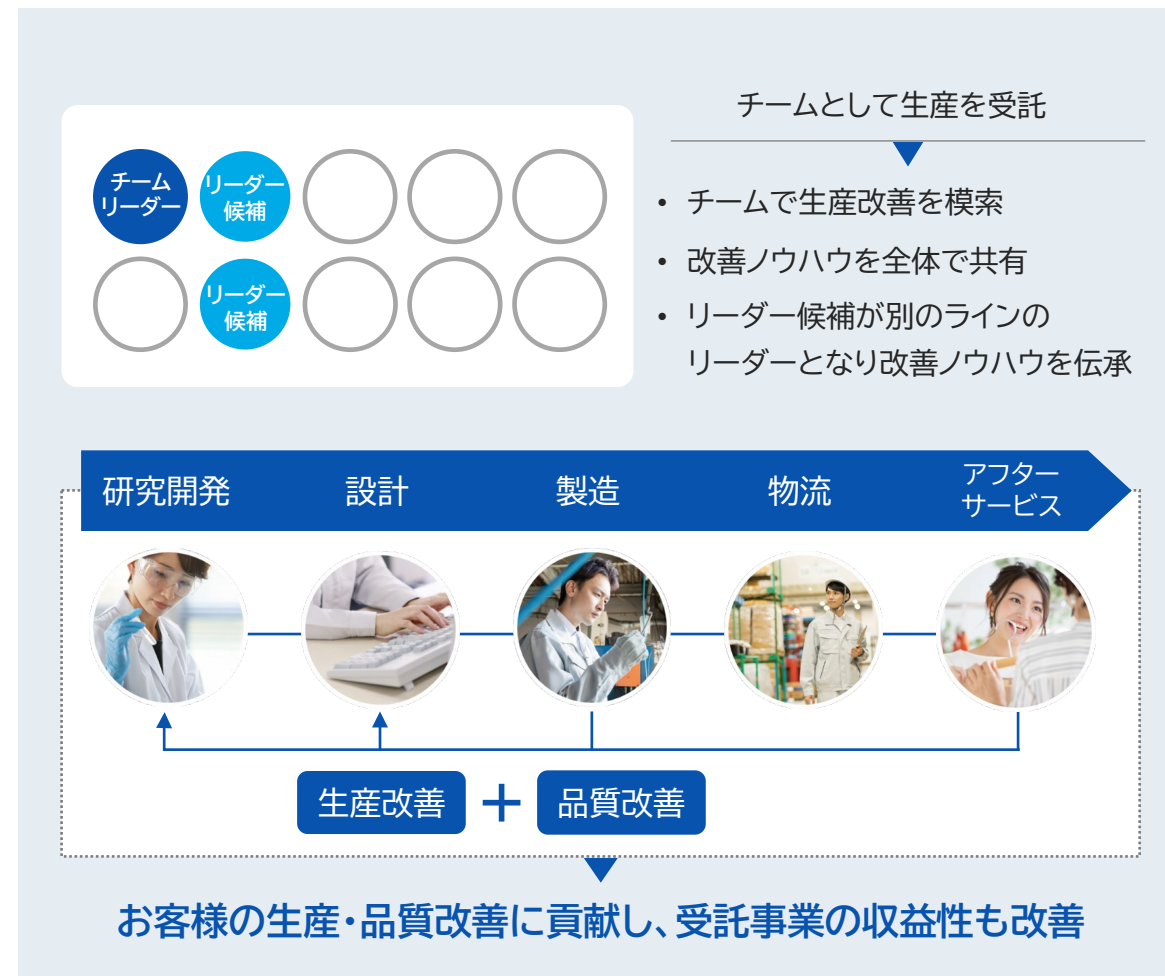
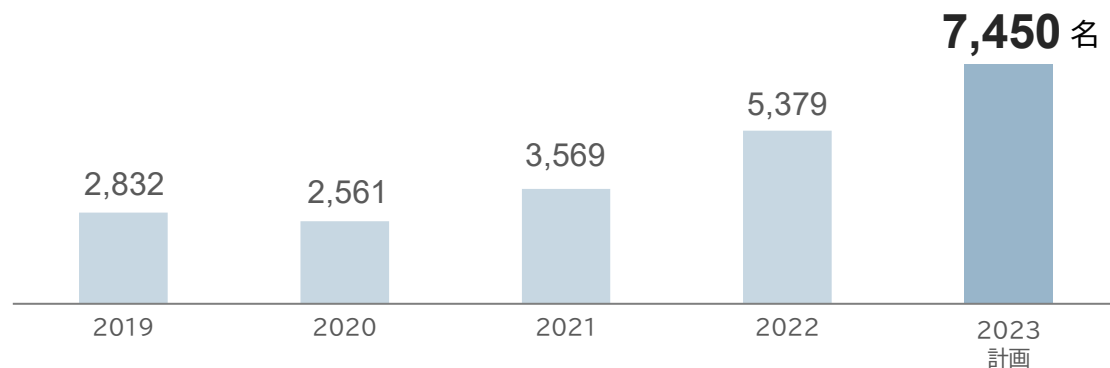
- リーダー研修・技術研修をはじめ各種研修を充実させ、社員のキャリアアップ・キャリアチェンジを実現する
- プロジェクトマネージャーやチームリーダー人材を育成し、受託案件数を増やす
- チームで生産改善を行い収益改善につなげると同時に、顧客企業の生産・品質改善に貢献

リーダー研修・技術研修体制の充実化

- ・ リーダー研修・次期事業所長研修
- ・ 次期リーダー向け研修
- ・ プロジェクトマネージャー研修
- ・ 機械設計・生産技術研修
- ・ ITエンジニア技術研修
- etc.



研修参加者数 (名)



コンソーシアムモデルの展開

- 当社が業務を受託し、地域の人材会社や顧客企業の協力会社と協業して業務を推進
- ロジスティクス分野で培ったノウハウをJW SOLUTIONやTOHO WORLDなどへも横展開

地域の人材派遣会社との協業



ワールドスタッフフーズ" (ロジスティクス分野) 外資系大手eコマース企業の複数の物流倉庫の受託

顧客

当社 業務を受託

人材会社

A

a b c d

人材会社

B

a b c d

人材会社

C

a b c d

人材会社

D

a b c d

有力企業とのコラボレーション(1)

- 他業界有力企業と提携して、「業界の変革」や「提携先企業の改革」に貢献し、当社も成長を目指す

観光産業の発展・人手不足に貢献



- 観光産業の発展や、人材不足に対応するため、JTBグループとコラボレーション
- 2019年4月に設立。ワールドHDグループ(60%出資)、JTBグループ(40%出資)
- 接客等に携わる人材の育成を行い、ホテルやテーマパーク、観光施設など施設業務を受託・人材派遣
- 各地の人材派遣会社とコンソーシアムを組み、当社とJTBグループが持つ人材育成・定着支援のノウハウを活かす

素材産業の技術・技能の伝承に貢献



- 素材業界の技術・技能の伝承や、後継者不足・人材不足に対応するため、東邦チタニウムとコラボレーション
- 2020年4月に、ワールドインテック(55%出資)と東邦チタニウム(45%出資)で設立
- 素材業界に特化した人材ビジネスを構築し、技術・技能を伝承
- 東邦チタニウムの外注業者とコンソーシアムを組み、外注業者の技術・技能人材を採用、育成し、東邦チタニウムの生産等を受託

有力企業とのコラボレーション(2)

- ヤマトホールディングスと戦略的業務提携を行うことで合意
- ヤマト・スタッフ・サプライの株式の51%をワールドスタッフィングが取得し子会社化へ(2023年9月1日予定)

戦略的業務提携



- 物流業界を取り巻く環境が変化する中、両社の経営資源のさらなる有効活用を図ることで、収益機会の維持や将来的な競争力の確保を進める
- 物流業務のリーディングカンパニーであるヤマトホールディングスのノウハウと、当社のコンソーシアムモデルを活用した物流倉庫の一括受託の強みを活かし多くの働く機会を創出
- ワールドスタッフィングがヤマト・スタッフ・サプライの株式の51%を取得、子会社化することで合意
- ヤマト・スタッフ・サプライはヤマトホールディングスにおける人材ビジネスを行っており、当社グループとなることで、リスキリングの機会を提供し総合人材会社へ成長

ヤマト・スタッフ・サプライがグループイン



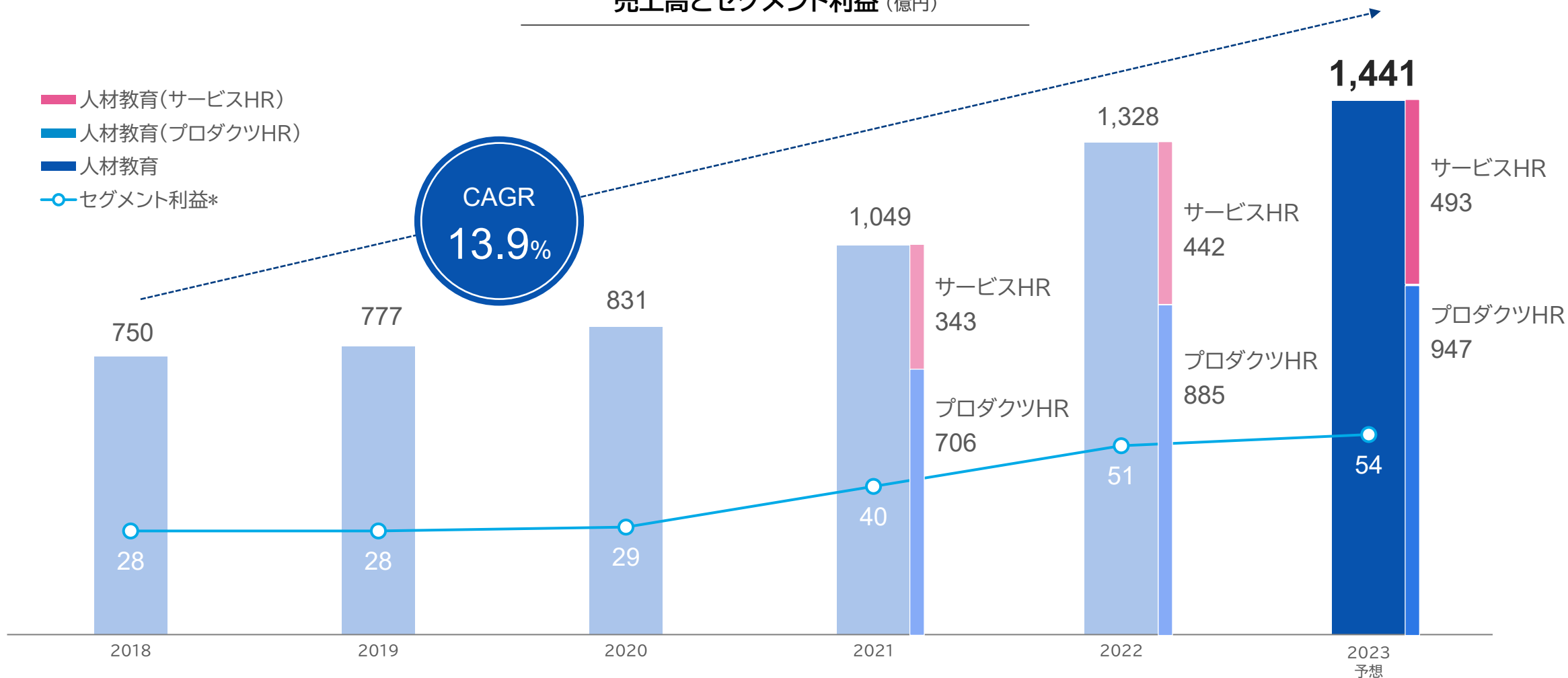
当社とヤマトホールディングスの
両トップによる記者会見の様子(2023年7月27日)



写真右:ヤマトホールディングス 代表取締役社長 長尾 裕 様

人材教育ビジネスの業績推移

売上高とセグメント利益 (億円)



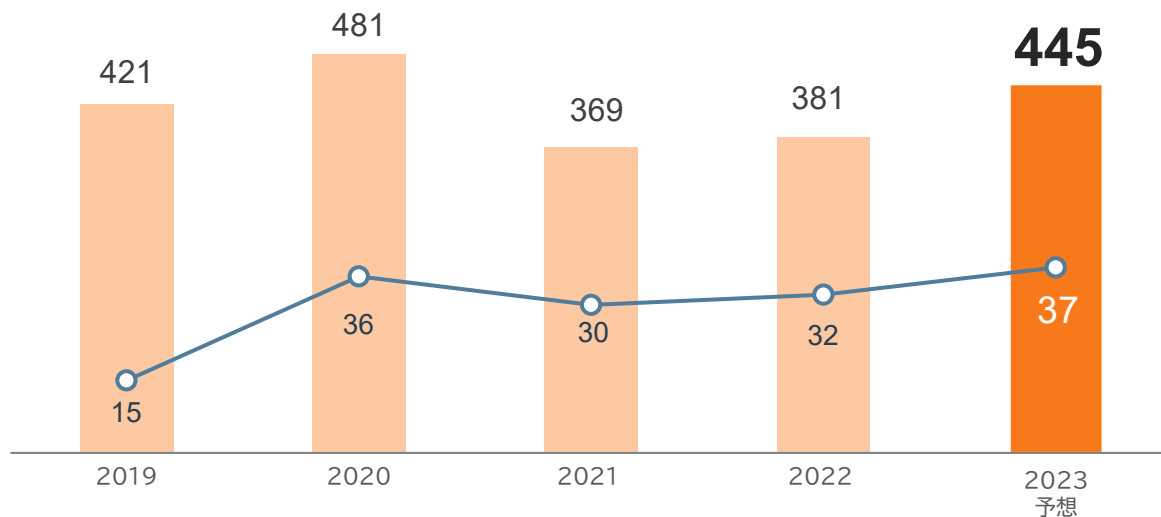
* 2021年12月期以前のセグメント利益は、2022年12月期からの新セグメントと同様の基準で遡及修正をした数値

不動産：無理をしない経営

- 不動産事業は“無理をしない経営”で事業展開を進めることでリスクを最少化
- 不動産仕入は慎重なスタンスを取りながらも、優良物件を見極めて仕入、不動産事業の在庫回転率は1回前後で安定

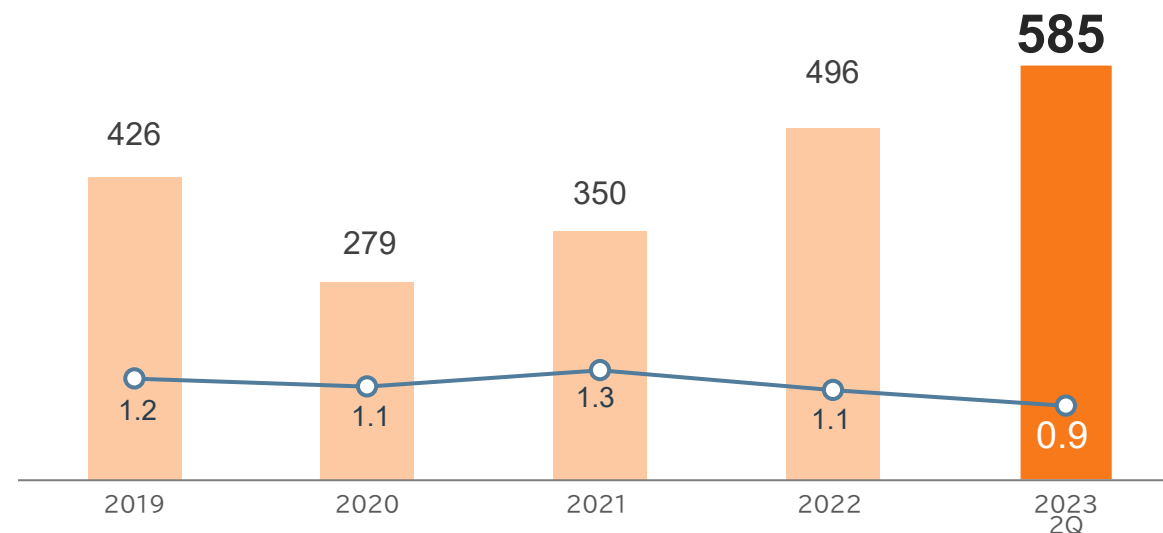
売上高とセグメント利益の推移 (億円)

■ 売上高
● セグメント利益



販売用・仕掛販売用不動産と在庫回転率の推移 (億円)

■ 販売用・仕掛販売用不動産
● 在庫回転率(回)



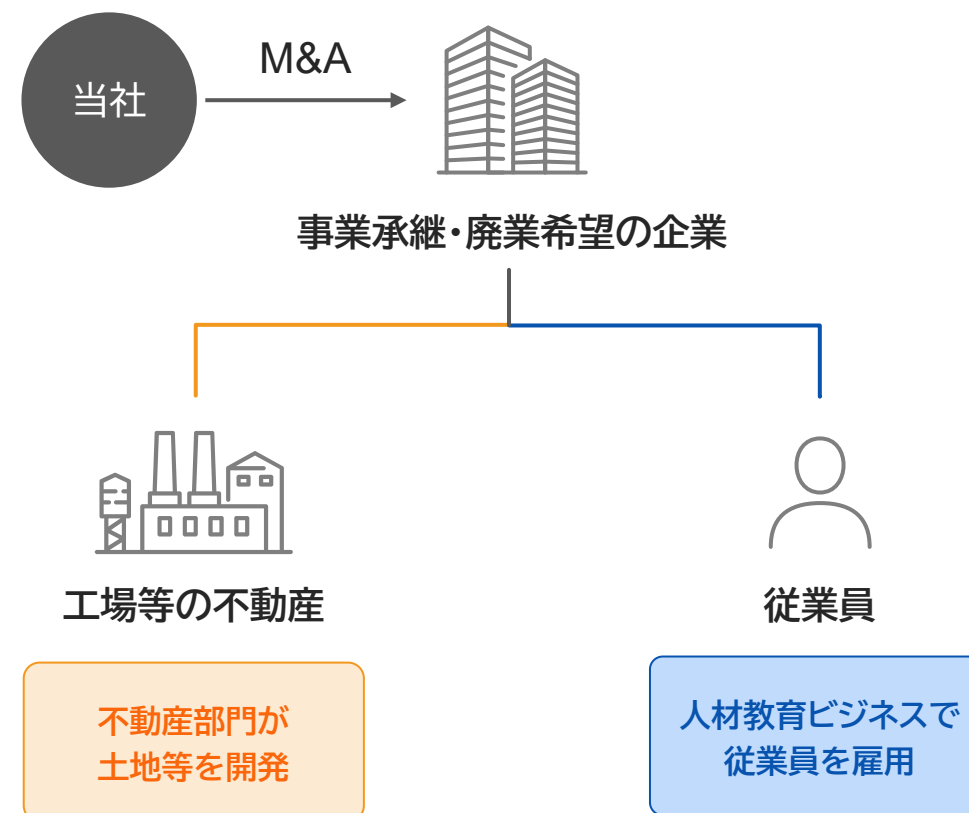
在庫回転率 = 不動産売上高を前期末の販売用不動産・仕掛販売用不動産で割ったもの
2023年12月期の不動産売上高は通期予想を使用

不動産：仕入れに強み、人材教育とのシナジー

- 中長期的には、不動産M&Aや物流施設の開発強化により人材教育ビジネスとのシナジーを追求



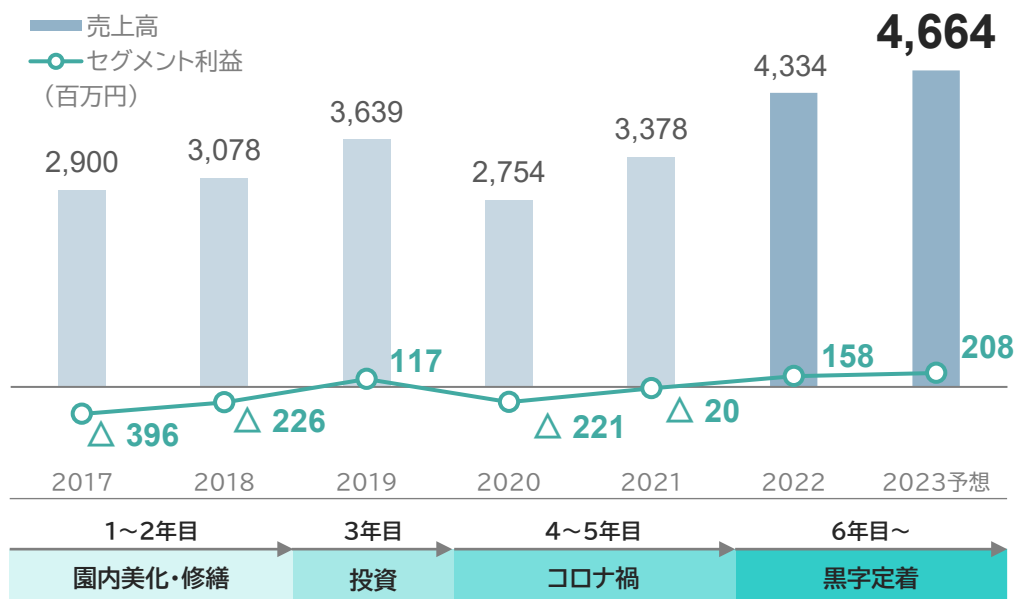
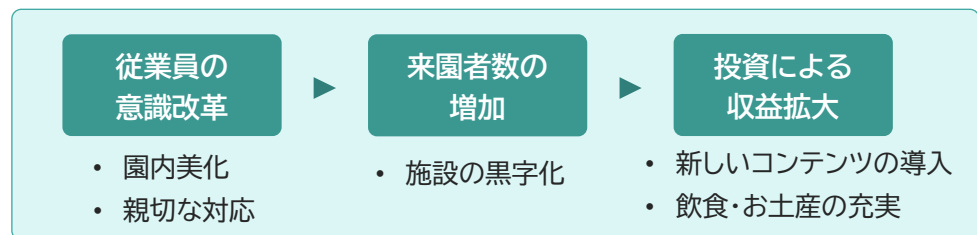
不動産M&A



農業公園：直営4施設の再生ノウハウを指定管理に活かす

- 直営4施設の再生・黒字化のノウハウを指定管理に活かし、管理施設の収益拡大へ
- 指定管理物件の受託拡大により、地方自治体などの業務委託者とWin-Winの関係を作り、地域経済・雇用にも貢献

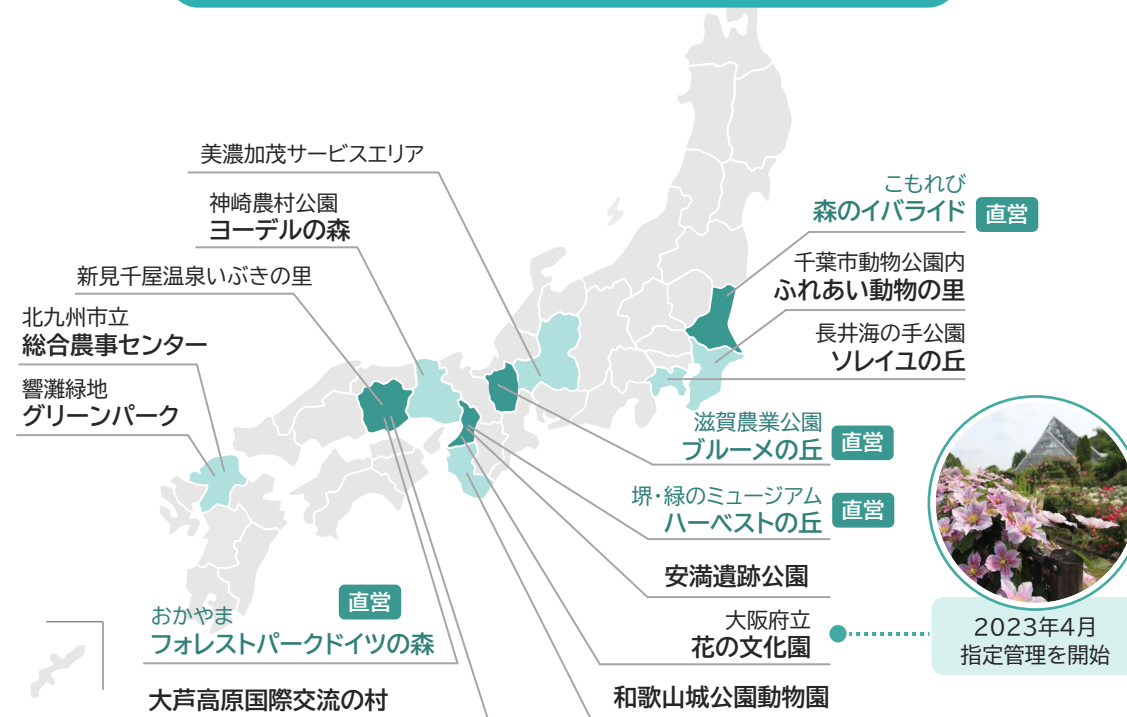
直営4施設の再生ノウハウ



全国15か所で自然あふれる農業公園等を展開

直営施設4か所と指定管理・業務受託等 計15か所の運営

地域に密着し、地域経済・雇用にも貢献





02

2023年12月期 第2四半期 決算概要

P.17

- P.18 決算サマリー
- P.19 業績概況
- P.20 業績概況/セグメント別
- P.22 プロダクツHR事業
- P.23 サービスHR事業
- P.24 不動産事業
- P.25 情報通信事業
- P.26 農業公園事業

全体サマリー

人材教育ビジネス・不動産ビジネスともに下期偏重計画の中、その準備を着実に推し進めながら、複数事業のポートフォリオにより変化に的確に対応し増収となった。両部門とも収益貢献時期が下期となるため、上期は減益となったが、通期では過去最高の業績を計画。

人材教育 ビジネス

上期は半導体や電子部品関連の生産減や、前期の特需案件終了の影響はあったが、複数業種での安定化を進めた結果、増収。過去最多となった新卒社員の研修等を上期に実施、収益貢献が下期になることから、上期は減益。上期は計画を上振れたが、半導体や電子部品関連の回復に不透明感があり、通期は期初計画を継続。前期比では複数業種に対応している強みを活かし増収、採用・育成等の先行投資の収益貢献で増益を計画。

不動産 ビジネス

未だ物件価格の高止まりが続く中、慎重な事業展開を進めながらも、最適な売却タイミングを捉え事業用地等の販売・引渡しを行ったことで、上期は減収減益ながらも、利益は計画以上に推移。マンションなど下期に集中する引渡し物件の販売は順調に推移しており、通期では増収増益を計画。

情報通信 ビジネス

携帯電話販売代理店業界が大きな変革期。料金値下げ等により手数料収入が減少。携帯電話店舗に法人向けの問題解決ノウハウ融合し、地域の課題解決拠点として、プレゼンス向上を図る。

農業公園 ビジネス

上期はGWの天候不順の影響を受けたものの、飲食や物品販売の強化などで増収、電気料金の高騰などの影響で減益。4月には新たな指定管理施設である「大阪府立 花の文化園」を受託し売上貢献。通期では施設開園効果や、飲食や物品販売の強化を継続し増収増益を計画。

業績概況

- 下期偏重計画の中、複数事業のポートフォリオにより安定的に増収を達成、人材教育ビジネスにおける採用・育成等先行投資を行ったことなどにより上期は減益、下期から収益に貢献する見通し
- 【売上】基幹の人材教育ビジネスは半導体や電子部品等が世界経済減速の影響を受けたが、複数業種をカバーする強みを活かし増収
- 【利益】人材教育ビジネスで先行投資による収益貢献が下期からになること、不動産事業での物件引渡しが下期に集中するため、減益

(百万円)	2022/Q2	2023/Q2	2023/Q2	計画比		前年同期比	
	実績	計画	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	86,208	88,736	90,461	1,725	1.9%	4,253	4.9%
営業利益	4,629	2,507	3,685	1,178	47.0%	△943	△20.4%
経常利益	4,740	2,433	3,645	1,212	49.8%	△1,094	△23.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,549	1,543	2,013	470	30.5%	△535	△21.0%

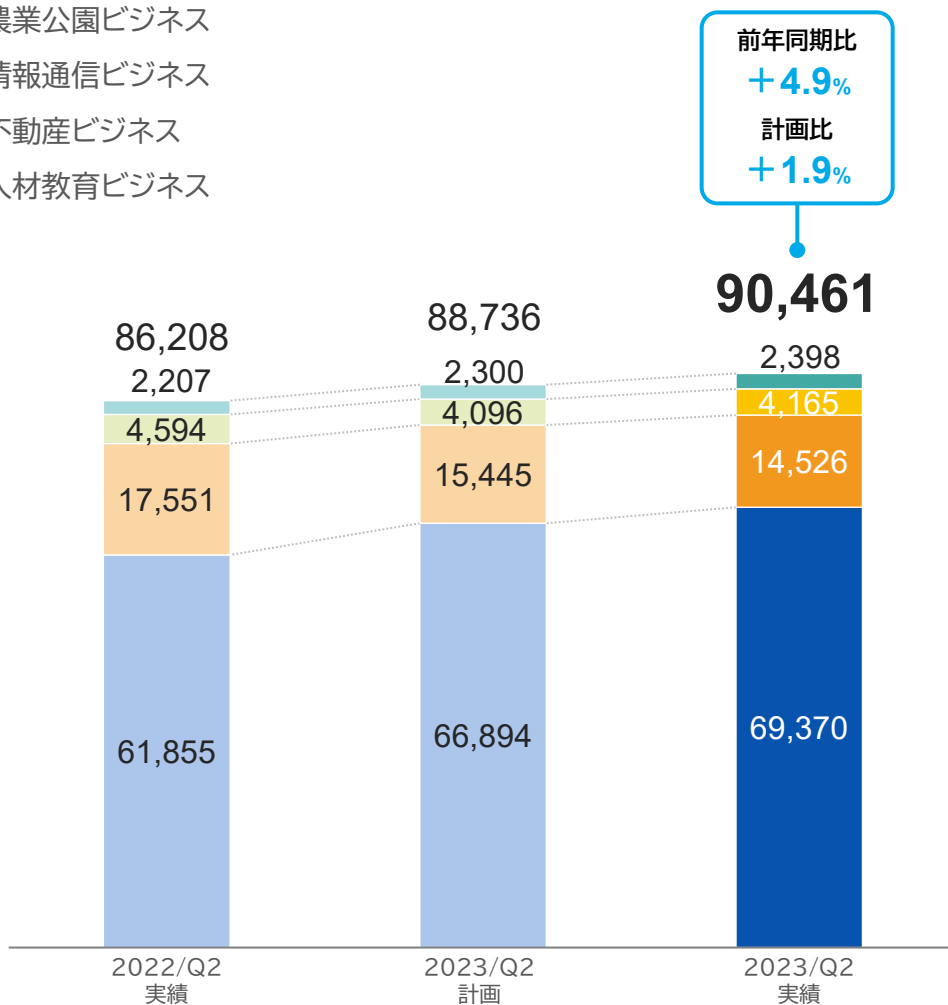
業績概況/セグメント別①

(百万円)		2022/Q2	2023/Q2	2023/Q2	計画比		前期比		
		実績	計画	実績	増減額	増減率	増減額	増減率	
人材教育ビジネス	売上高	61,855	66,894	69,370	2,476	3.7%	7,515	12.2%	
	セグメント利益	2,597	1,398	1,807	409	29.2%	△789	△30.4%	
	利益率	4.2%	2.1%	2.6%					
	プロダクツHR ビジネス	売上高	41,203	44,735	47,946	3,210	7.2%	6,742	16.4%
		セグメント利益	1,901	1,222	1,650	428	35.1%	△250	△13.2%
		利益率	4.6%	2.7%	3.4%				
	サービスHR ビジネス	売上高	20,651	22,158	21,424	△734	△3.3%	772	3.7%
		セグメント利益	695	176	156	△19	△11.0%	△538	△77.4%
		利益率	3.4%	0.8%	0.7%				
不動産ビジネス	売上高	17,551	15,445	14,526	△919	△6.0%	△3,024	△17.2%	
	セグメント利益	1,587	618	1,264	646	104.5%	△323	△20.4%	
	利益率	9.0%	4.0%	8.7%					
情報通信ビジネス	売上高	4,594	4,096	4,165	69	1.7%	△428	△9.3%	
	セグメント利益	76	48	15	△33	△68.4%	△61	△79.9%	
	利益率	1.7%	1.2%	0.4%					
農業公園ビジネス	売上高	2,207	2,300	2,398	98	4.3%	191	8.7%	
	セグメント利益	184	107	122	15	14.7%	△61	△33.5%	
	利益率	8.4%	4.7%	5.1%					
合計	売上高	86,208	88,736	90,461	1,725	1.9%	4,253	4.9%	
	消去又は全社	183	335	475	140	42.0%	292	159.5%	
	営業利益	4,629	2,507	3,685	1,178	47.0%	△943	△20.4%	
	利益率	5.4%	2.8%	4.1%					

業績概況/セグメント別②

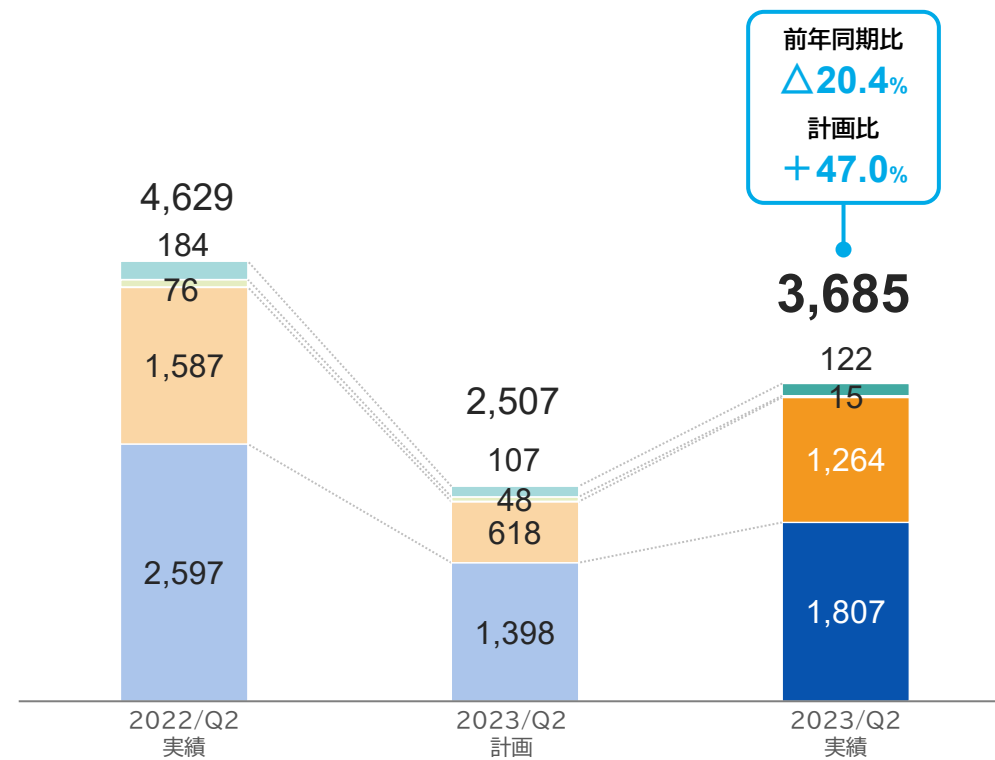
売上高 (百万円)

- 農業公園ビジネス
- 情報通信ビジネス
- 不動産ビジネス
- 人材教育ビジネス



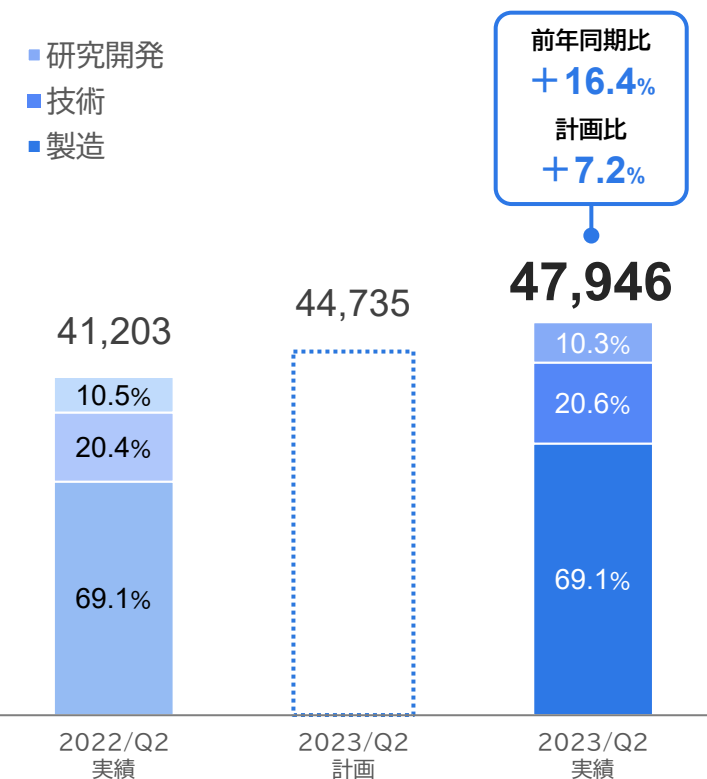
セグメント利益 (百万円)

- 農業公園ビジネス
- 情報通信ビジネス
- 不動産ビジネス
- 人材教育ビジネス

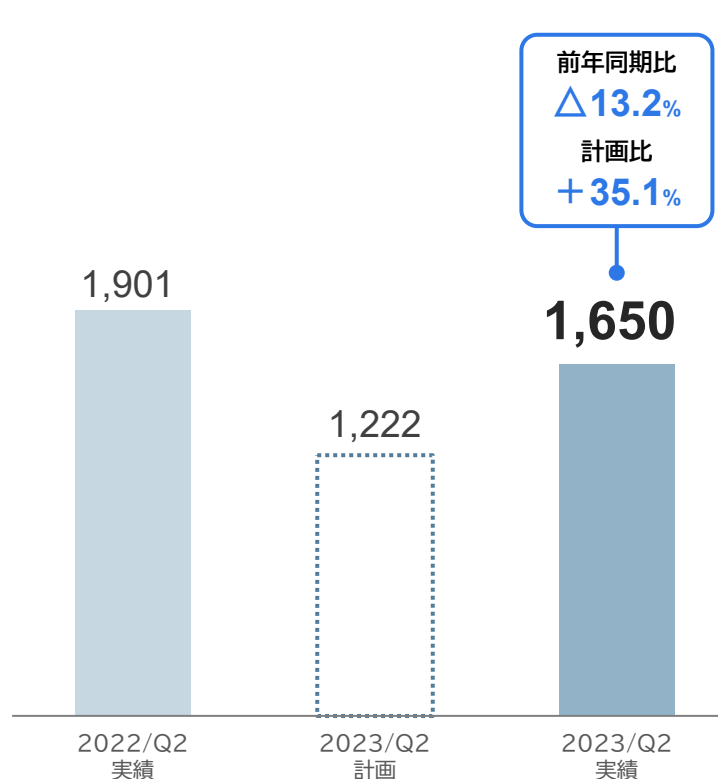


- 売上高は半導体・電子部品・機械関連のオーダーが減少する中で、自動車関連など様々な業種への対応を進めたため増収、計画比でも上振れ過去最多の新卒採用を行い対応力を強化、入社研修等で新卒社員の収益貢献は下期以降になるため、利益は計画比上振れだが、減益
- 日本技術センターの株式取得は無事に完了、今後は関西地区での技術分野の強化と受託業務の深化に繋げる

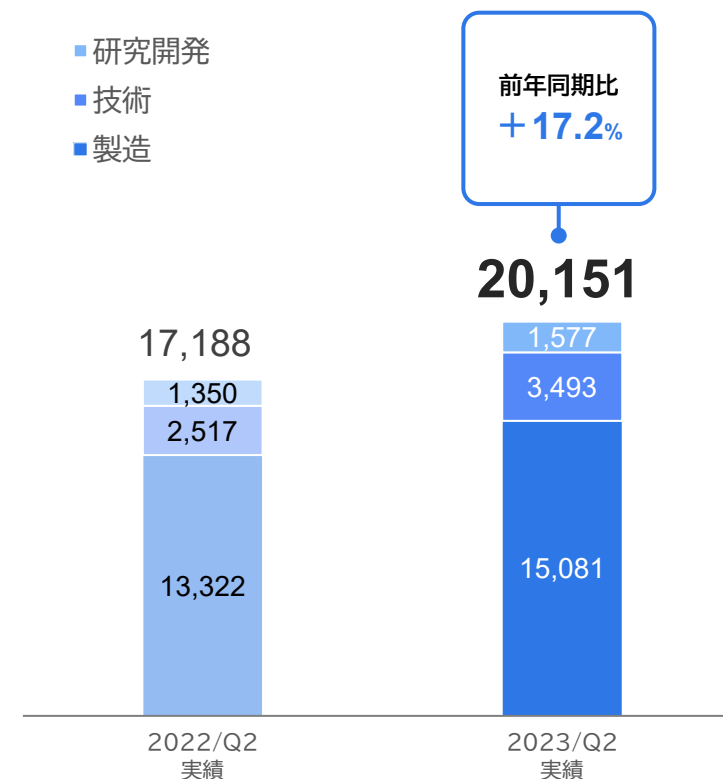
売上高 (百万円)



セグメント利益 (百万円)



在籍数 ※3か月平均 (人)



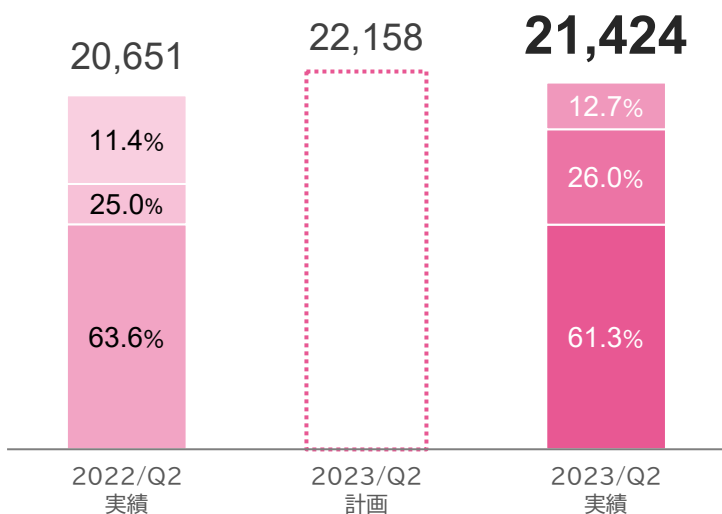
サービスHR事業

- 前年上期にあった特需案件は終了したが、ロジスティクス分野での新拠点開設、接客販売・ツーリズム分野の増収により、前期比増収
- ロジスティクス分野での受託体制・コンソーシアム体制で培った人材管理・派遣会社の発注管理ノウハウを活かし、新たに派遣発注管理代行等のビジネスに繋げるなど積極的な投資
- 先行投資に加え、前年上期にあった特需案件の終了による反動減により利益は減少

売上高 (百万円)

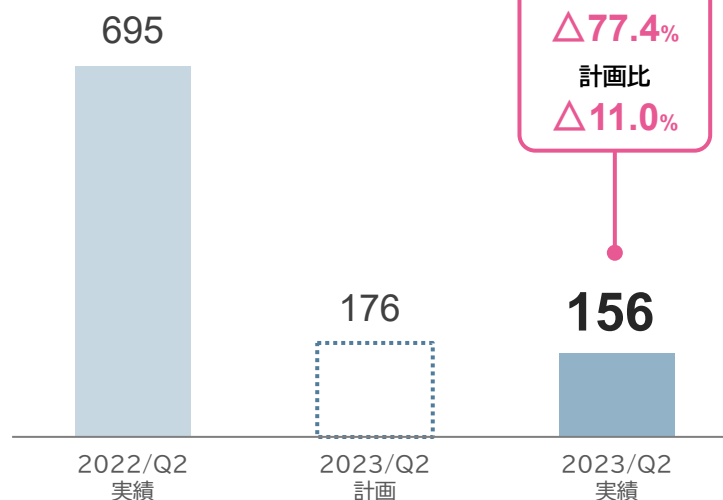
- ツーリズム/BPO関連
- 接客販売
- ロジスティクス

前年同期比
+3.7%
計画比
△3.3%



セグメント利益 (百万円)

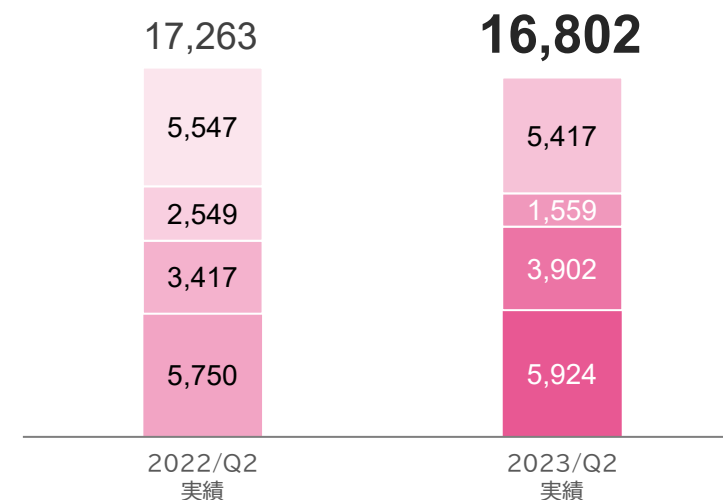
前年同期比
△77.4%
計画比
△11.0%



在籍数 ※3か月平均 (人)

- コンソーシアム
- ツーリズム/BPO関連
- 接客販売
- ロジスティクス

前年同期比
△2.7%

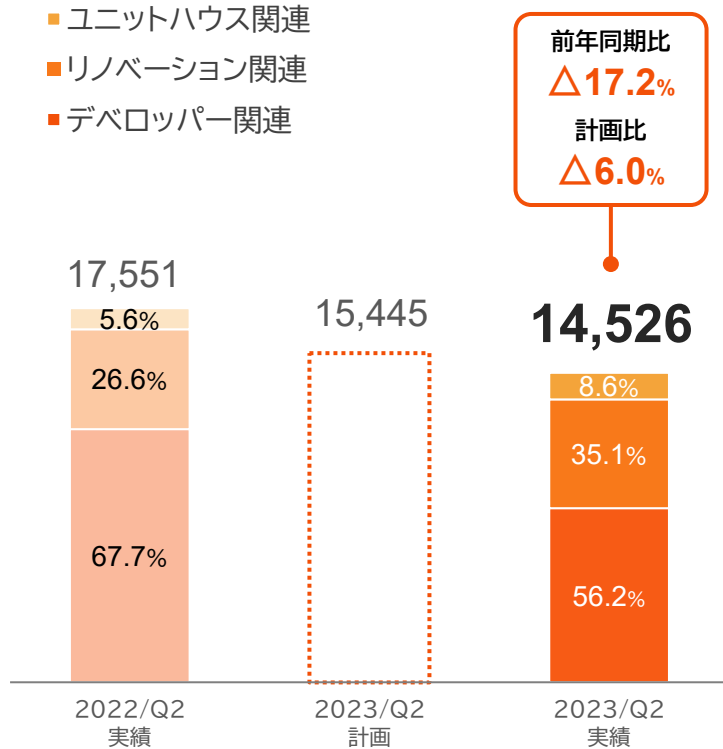


不動産事業

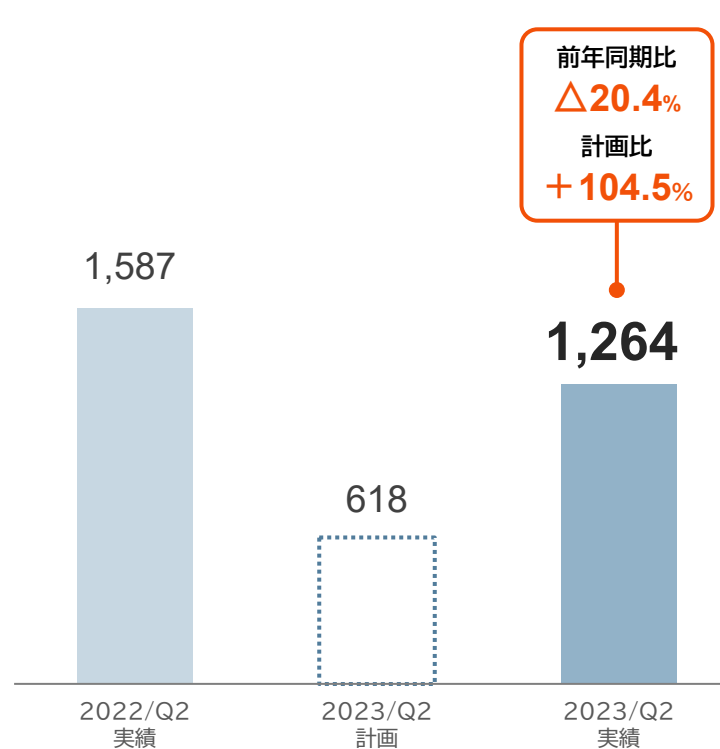
- 未だ不動産価格の高止まりが続き、慎重な事業展開を継続する中、最適な売却タイミングを捉え事業用地等の販売・引渡しを行ったことで、セグメント利益は計画比上振れ
- 今期は、分譲マンションをはじめ多くの物件の引渡しが下期に集中するため、上期は減益だが、対象物件の販売は概ね計画通り順調に進捗しており、通期では増益計画

売上高 (百万円)

- ユニットハウス関連
- リノベーション関連
- デベロッパー関連

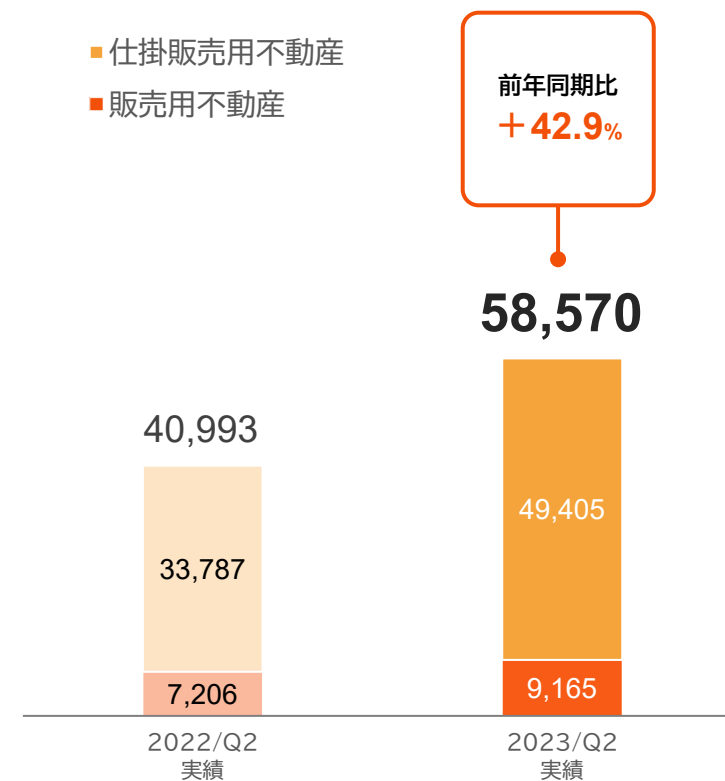


セグメント利益 (百万円)



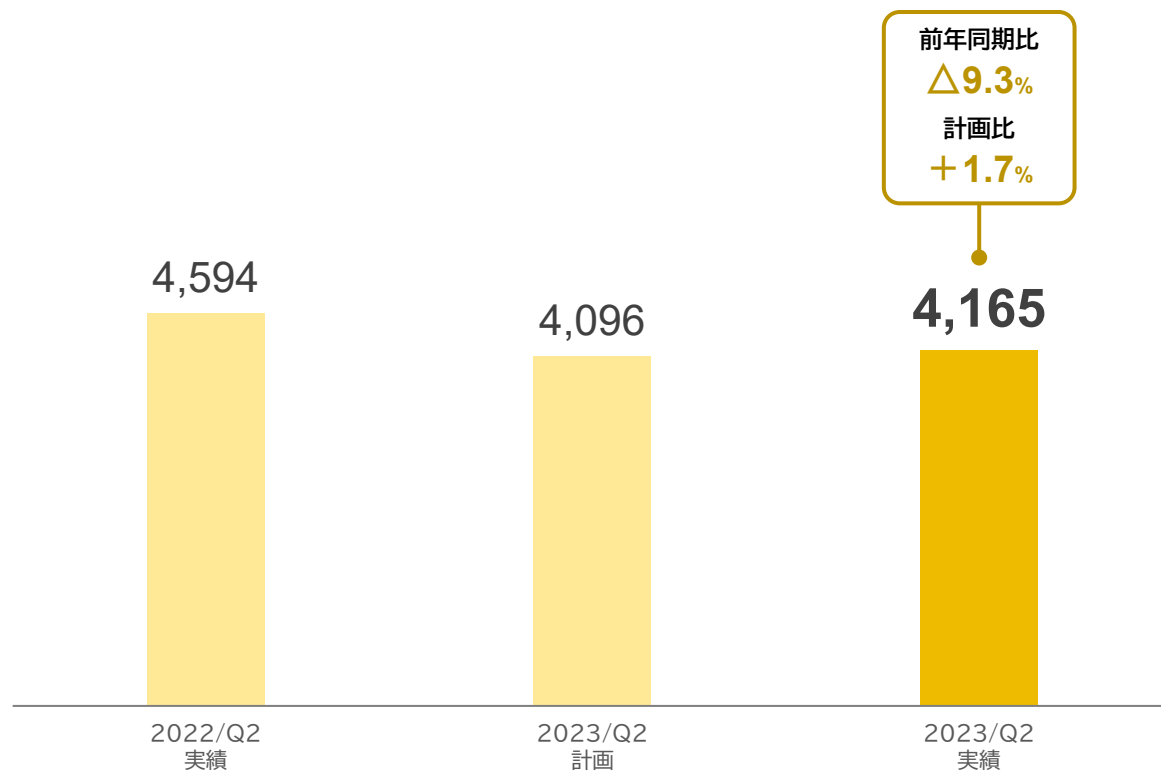
販売用不動産 (百万円)

- 仕掛販売用不動産
- 販売用不動産

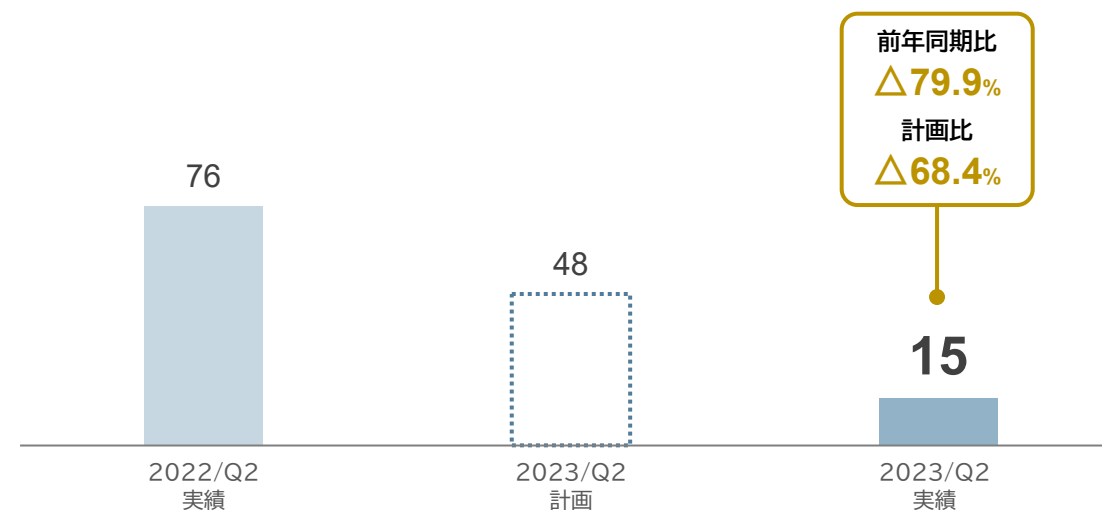


- 携帯電話料金の値下げによる1ユーザーあたりの利用単価の減少や各通信事業者の手数料条件改定等で手数料収入が減少し、減収減益
- 個人向け携帯電話店舗に、法人向けソリューション事業の課題解決ノウハウを融合し、地域の課題解決拠店としてのプレゼンス向上を図る

売上高 (百万円)



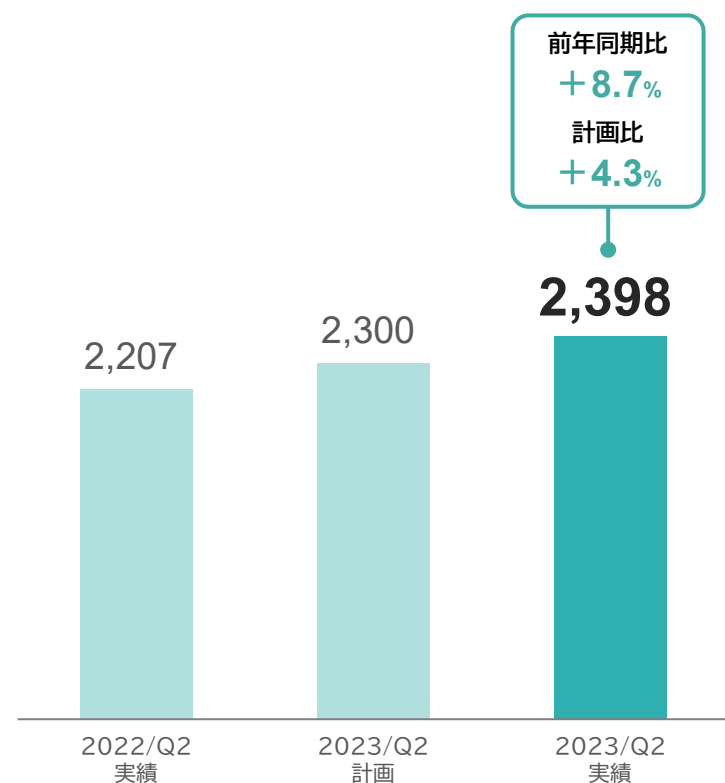
セグメント利益 (百万円)



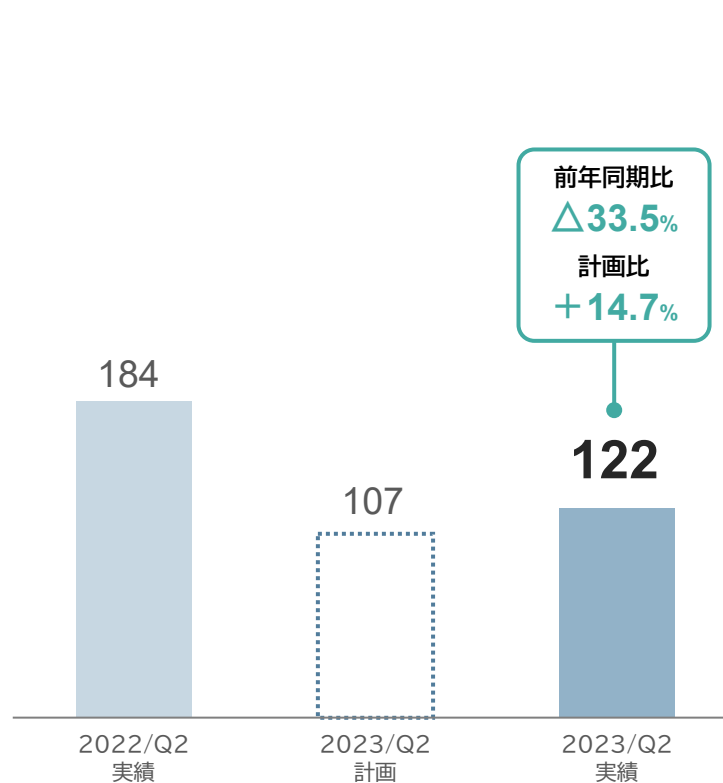
農業公園事業

- 売上高はGW中の天候不良の影響等はあったものの、飲食や物品販売の強化などで増収、計画比でも上振れた。利益面は電気料金の高騰など販管費増加の影響を受け減益だが、計画比では上振れ
- 「こもれび森のイバライド」では、温室効果ガス削減と電気料金削減を目的に、太陽光発電設備・蓄電池設備を新たに導入。広大な屋外施設を持つ強みを活かし環境に配慮した取り組みを推進。4月に「大阪府立 花の文化園」の指定管理を開始(15か所目)

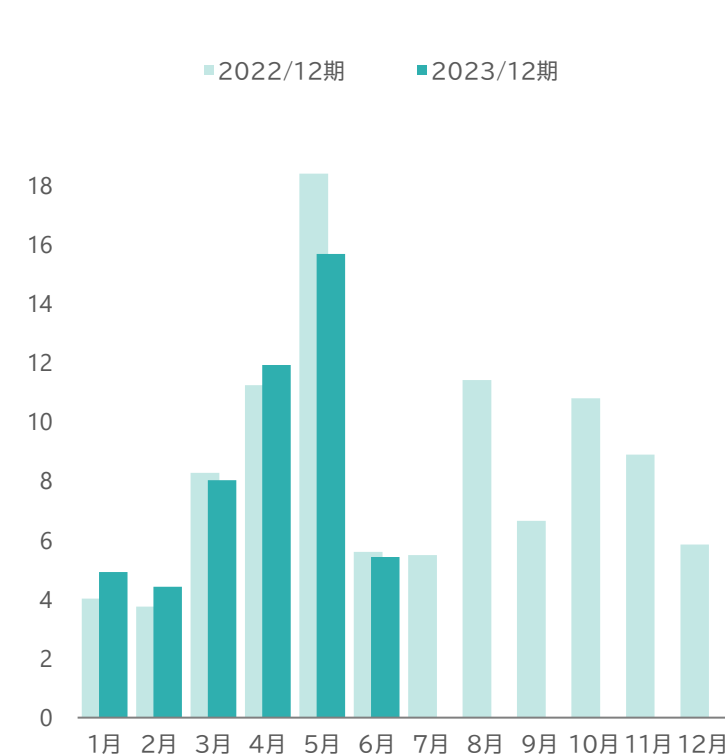
売上高 (百万円)



セグメント利益 (百万円)



入園者数 (万人)





03

2023年12月期
業績見通し

P.27

- P.28 2023年12月期通期業績見通し
- P.29 セグメント別通期業績見通し
- P.30 株主還元

2023年12月期通期業績見通し

- 通期は売上高、利益とも期初計画を継続。上期は計画比上振れたが、半導体・電子部品関連等の回復が遅れるリスクを考慮
- 主力の人材教育ビジネスで着実な成長を図ることに加え、不動産ビジネスでの販売も順調に進んでいることから、通期では過去最高の業績を更新する計画
- 下期には人材教育での新卒社員の収益貢献や、不動産での物件引渡しが集中するため、利益は下期偏重の計画

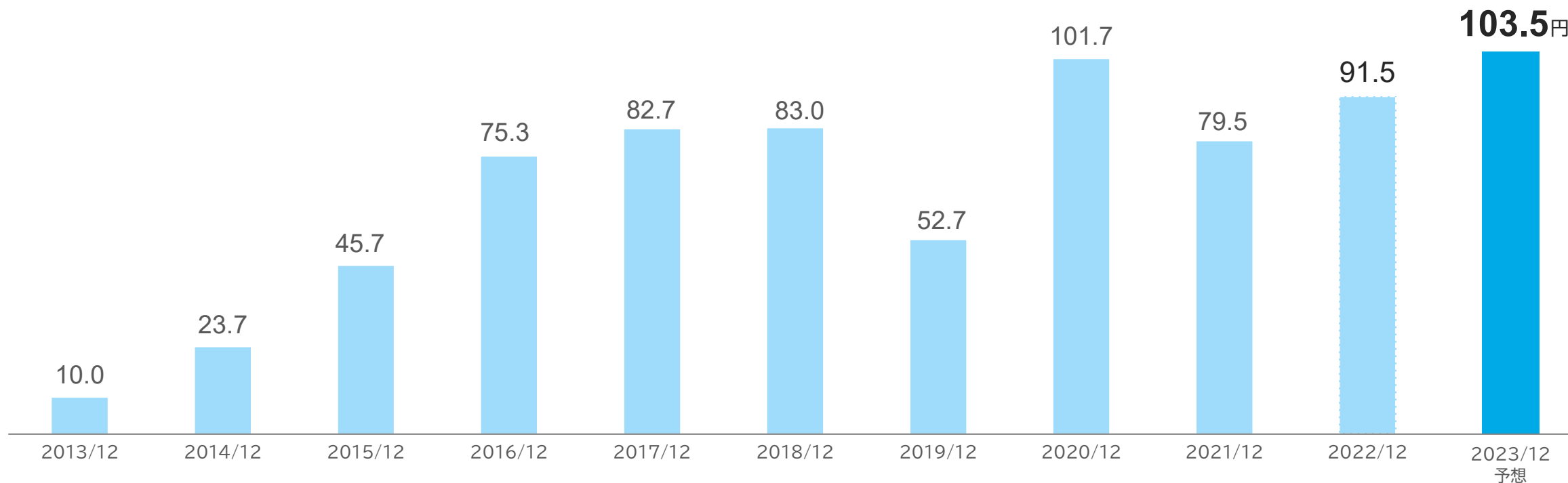
(百万円)	2022/12 通期	2023/12 通期	前期比	
	実績	計画	増減額	増減率
売上高	183,640	201,354	17,714	9.6%
営業利益	8,929	9,916	987	11.1%
経常利益	8,933	9,453	520	5.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,341	6,045	703	13.2%
一株当たり利益(円)	305.50	344.84	39.34	12.9%
一株当たり配当金(円)	91.50	103.50	12.00	13.1%

セグメント別通期業績見通し

(百万円)			2022/12 通期	2023/12 通期	前期比	
			実績	計画	増減額	増減率
<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 5px; text-align: center;">人材教育ビジネス</div> <div style="background-color: #a6c9ec; color: #0056b3; padding: 5px; text-align: center;">プロダクツHR ビジネス</div> <div style="background-color: #f0a0c0; color: #0056b3; padding: 5px; text-align: center;">サービスHR ビジネス</div>	売上高	132,880	144,104	11,223	8.4%	
	セグメント利益	5,179	5,409	230	4.4%	
	利益率	3.9%	3.8%			
	売上高	88,598	94,732	6,133	6.9%	
	セグメント利益	4,054	4,265	211	5.2%	
	利益率	4.6%	4.5%			
	売上高	44,282	49,371	5,089	11.5%	
	セグメント利益	1,125	1,144	19	1.7%	
	利益率	2.5%	2.3%			
<div style="background-color: #e69d00; color: white; padding: 5px; text-align: center;">不動産ビジネス</div>	売上高	38,044	44,511	6,466	17.0%	
	セグメント利益	3,181	3,728	547	17.2%	
	利益率	8.4%	8.4%			
<div style="background-color: #f0e600; color: white; padding: 5px; text-align: center;">情報通信ビジネス</div>	売上高	8,399	8,074	△325	△3.9%	
	セグメント利益	125	214	88	70.7%	
	利益率	1.5%	2.7%			
<div style="background-color: #009688; color: white; padding: 5px; text-align: center;">農業公園ビジネス</div>	売上高	4,314	4,664	349	8.1%	
	セグメント利益	158	208	49	31.4%	
	利益率	3.7%	4.5%			
<div style="background-color: #00a0e6; color: white; padding: 5px; text-align: center;">合計</div>	売上高	183,640	201,354	17,714	9.6%	
	消去又は全社	284	354	70	24.8%	
	営業利益	8,929	9,916	987	11.1%	
	利益率	4.9%	4.9%			

株主還元

- 将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、業績に応じた利益配分を行うことを基本方針とし、配当性向30%を目安として安定的かつ継続的な配当成長を目指す
- 2023年度は過去最高となる103.5円への増配を予想





04

Appendix

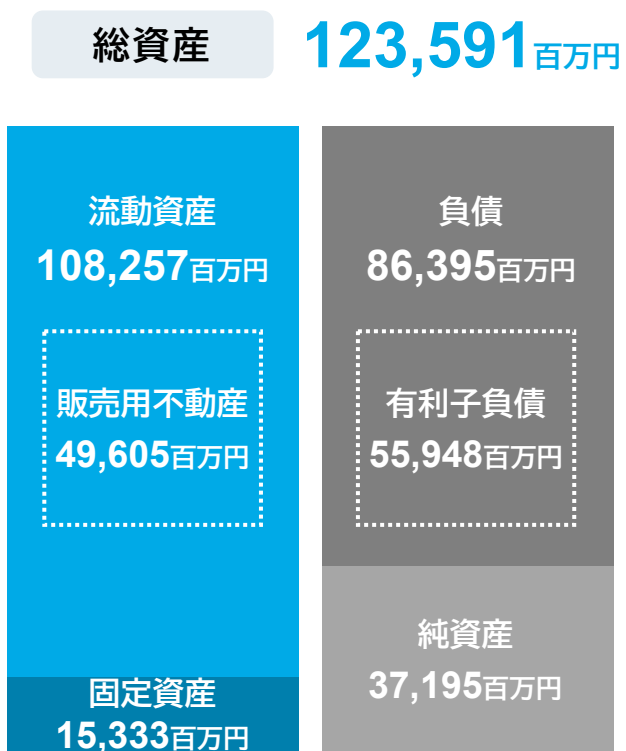
P.31

- P.32 財政状態 B/S
- P.33 キャッシュ・フロー
- P.34 事業ポートフォリオ
- P.35 主な沿革
- P.36 主なグループ会社
- P.37 不動産ビジネス
- P.38 情報通信ビジネス
- P.39 農業公園施設一覧
- P.40 業績推移
- P.41 中期経営計画について
- P.42 参考:2021-2023 2Q業績 四半期推移
- P.43 本資料に関するお問い合わせ

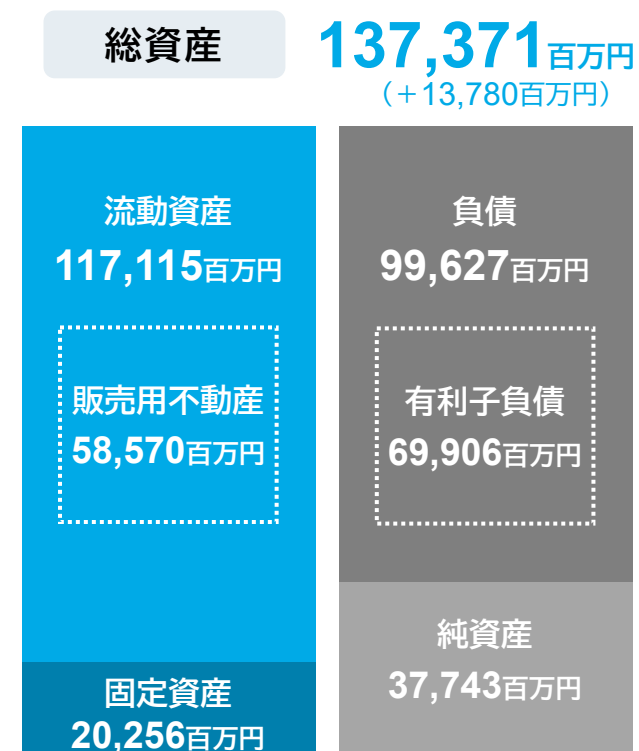
財政状態 B/S

- 主に販売用不動産が増加し、流動資産が88億円増の1,171億円
- 同様に販売用不動産の増加により有利子負債が増加し、負債は132億円増の996億円

2022年12月期末

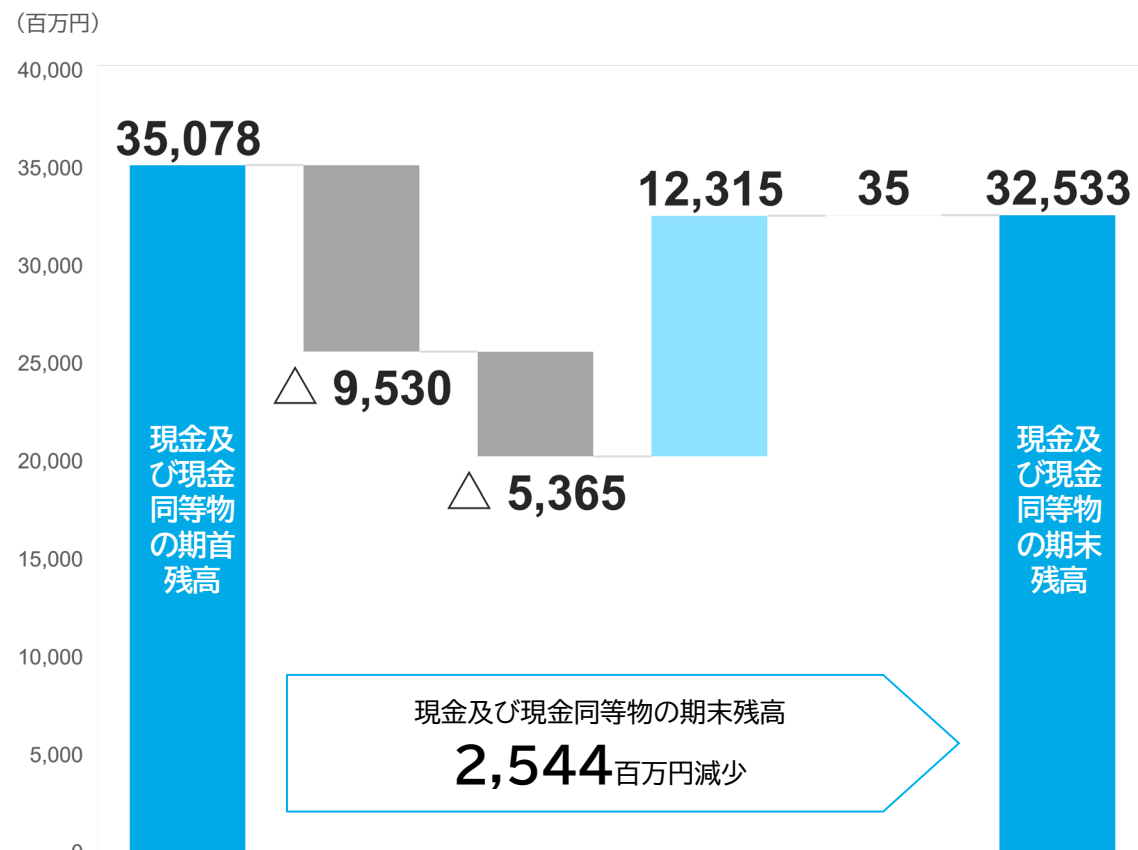


2023年12月期 Q2末



キャッシュ・フロー

- 販売用不動産の増加による支出(営業CF)
- 新規連結子会社株式の取得による支出(投資CF)
- 長期借り入れによる収入(財務CF)



今期の主な動き

営業CF

(百万円)

税金等調整前四半期純利益	3,644
減価償却費	453
販売用不動産の増減額(増加:△)	△8,964
棚卸資産の増減額(増加:△)	△667
未払消費税の増減額(減少:△)	△1,264
未払費用の増減額(減少:△)	△349

投資CF

有形固定資産の取得による支出	△349
新規連結子会社の取得による支出	△4,822

財務活動によるCF

短期借入金の純増減額(減少:△)	2,880
長期借入れによる収入	13,424
長期借入金の返済による支出	△2,358
配当金の支払額	△1,603

Create a Sustainable World.

バランスの取れた事業ポートフォリオにより
高い成長を実現し持続的な世界を創造する



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています

人が生きるカタチ



変化への対応力を重視した
ビジネスモデル構築

業種分散

地域分散

フロー
ビジネス

ストック
ビジネス

人材教育ビジネス



プロダクツHR事業

サービスHR事業

不動産ビジネス

不動産事業



情報通信ビジネス

情報通信事業

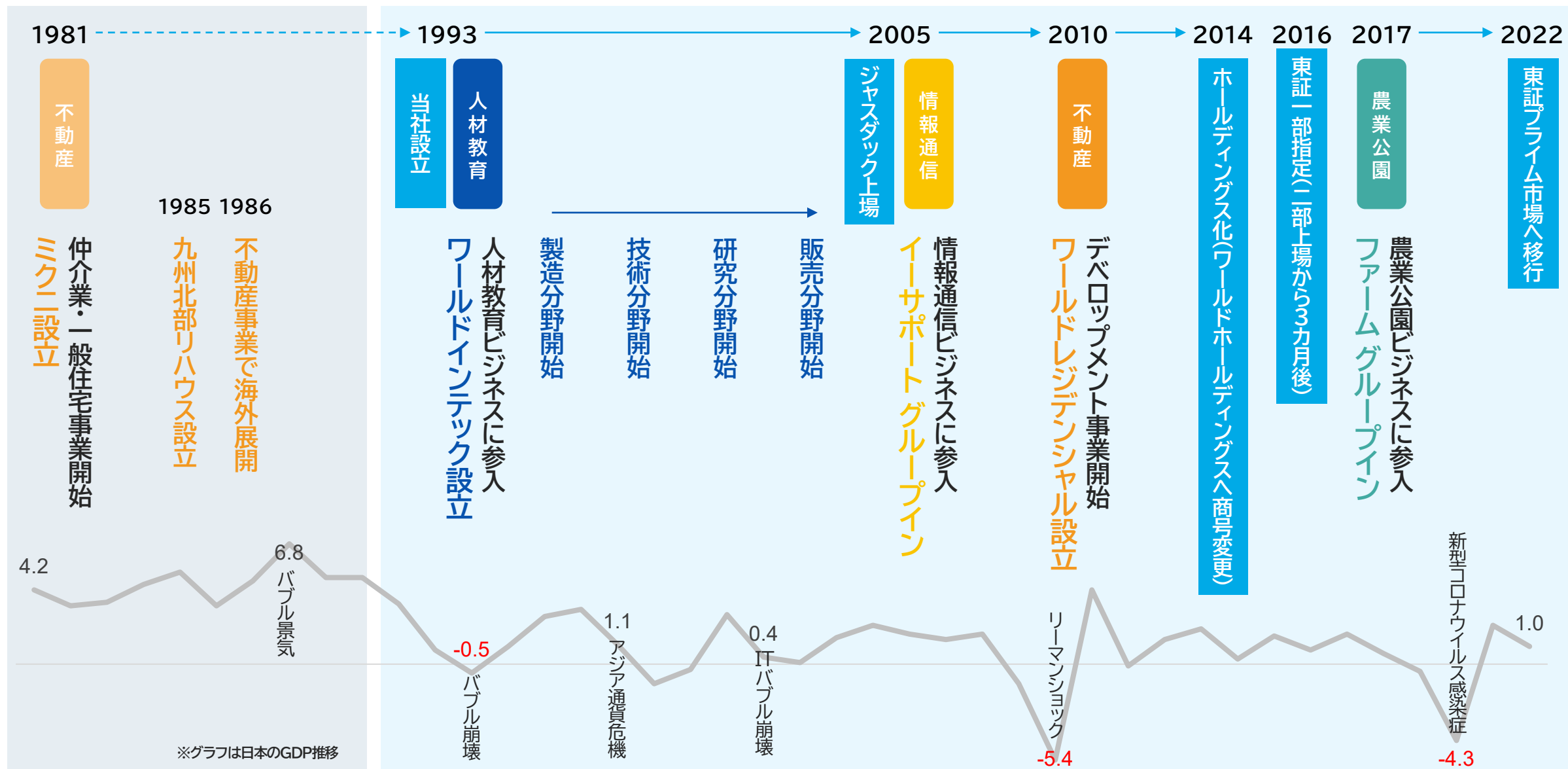


農業公園ビジネス

農業公園事業



主な沿革



主なグループ会社



関連会社 49社

人材教育ビジネス

不動産ビジネス

情報通信ビジネス

農業公園ビジネス

プロダクツHR事業

サービスHR事業

- ワールドインテック**
人材サービス (製造・技術・研究開発)
- ワールドコンストラクション**
人材サービス(建設技術)
- TOHO WORLD**
人材サービス(素材関連)
- 台湾英特科**
人材サービス【台湾】
- 悟路徳商務諮詢**
ビジネスコンサルティング・総合人材サービス業【中国】(非連結)
- EngmaIntec**
人材サービス【中国】
- WORLD INTEC AMERICA**
人材サービス【アメリカ】
- ワールドグローバルサポート**
技能実習生導入支援
- DOT ワールド**
臨床試験(CRO)
- NIKKIEN**
カメラ・デジタル機器修理
- 九州地理情報株式会社**
地理情報システム開発
- ワールドシステムサービス**
ソフトウェア受託開発

- ワールドスタッフイング**
人材サービス (物流・軽作業・コールセンター)
- JWソリューション**
人材サービス(ツーリズム)
- デインプル**
人材サービス(接客販売)
- デインプルリアルティスタッフ**
人材サービス(接客販売)(非連結)
- Wakrak**
短期バイトアプリ Wakrakの開発・運営(非連結)
- CreationView Co., Ltd.**
ソフトウェア受託開発
- Advan**
株式会社アドバン
PCスクール・Web制作
- グレイテック**
株式会社
人材サービス(製造・プラント)
- 株式会社 日本技術センター**
技術請負・設計・製造分野の
人材サービス業
- TECHNOLINK**
各種産業用機械の設計開発業
- 三金開発**
人材サービス(素材関連)(非連結)

■ 人材教育ビジネス・プロダクツHR事業 19社 ・サービスHR事業 5社

- ワールドレジデンシャル**
デベロップメント(関東)
- ワールドアイシティ**
デベロップメント(東北)
- ワールドレジデンシャル関西**
デベロップメント(関西)
- ニチモリアルエステート**
不動産コンサルティング
- ワールドライフパートナー**
マンション・ビル管理
- WORLD DEVELOPMENT INDONESIA**
デベロップメント【インドネシア】(非連結)
- オオマチワールド**
ユニットハウス製造
- ワールドシェアセリング**
ユニットハウス販売・地盤調査(非連結)
- 金融関連
- ワールドアセットマネジメント**
不動産ファンド運営(金商法)(非連結)
- ワールドキャピタルソリューション**
不動産ファンド運営(不特法)
- みらい債権回収**
債権回収(非連結)

- MIKUNI**
総合不動産
- リノベミクニ**
リノベーション
- エムズワールド**
リノベーション(北海道)

■ 不動産ビジネス 14社

- イーサポート**
コールセンター・ショップ運営
- ネットワークソリューション**
モバイルショップ運営(Softbank)
- ワールドスタイル**
モバイルショップ運営(au)
- ベストITビジネス**
法人ソリューション

■ 情報通信ビジネス 4社

- ワールドインテック**
農業公園の管理運営
- 株式会社 クラウドイ**
農業公園の管理運営

■ 農業公園ビジネス 7社

あらゆる外部環境変化へ対応可能な体制を構築

現物不動産

デベロップメント

マンション・戸建 事業用地開発

東北圏・首都圏・近畿圏・九州圏で
主要都市に特化し事業展開

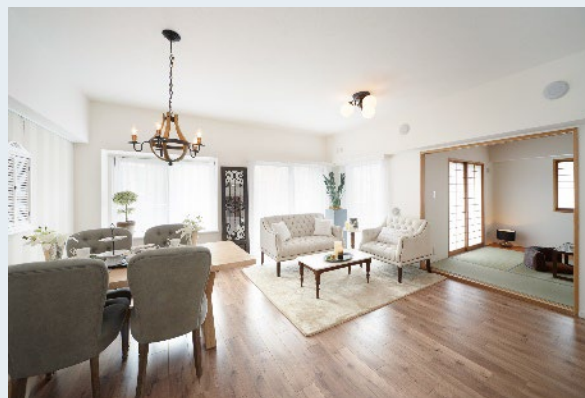


レジデンシャル青葉広瀬川《宮城県仙台市》

不動産再生

リノベーション コンバージョン

全国でリノベーション等の
不動産再生関連事業を展開



リノベーション例



不動産信託受益権

不動産金融

アセット マネジメント

不動産ファンド運営



BIZIA麹町ビル

モバイルショップ

九州地域最大級の店舗網

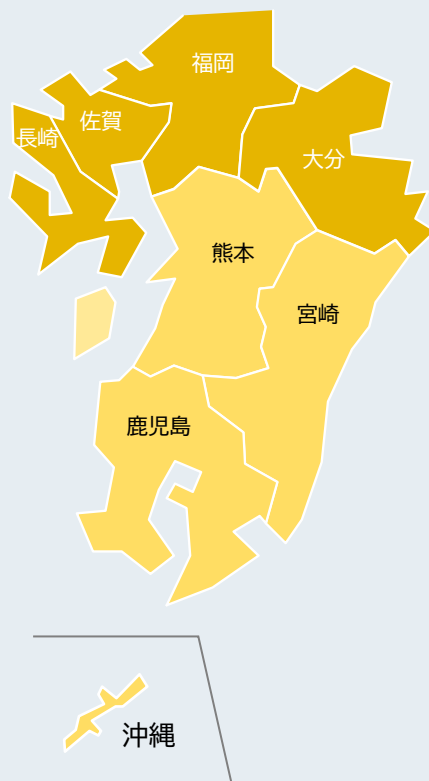
携帯電話ショップを、福岡県、佐賀県、大分県、長崎県にて展開

Softbank ショップ

au ショップ

31 店舗

2023年6月現在



法人ソリューション

企業向けに、各種商材の販売を通して、電力、通信費等のコスト削減提案を実施

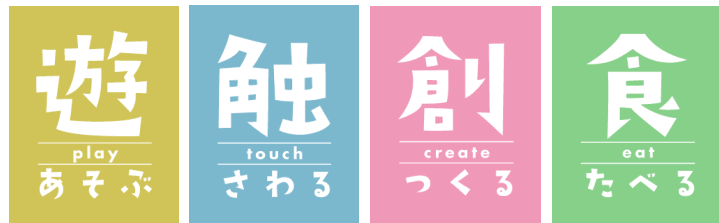
トータルコスト削減ソリューション



コールセンター

個人・法人向けに様々な商材を販売



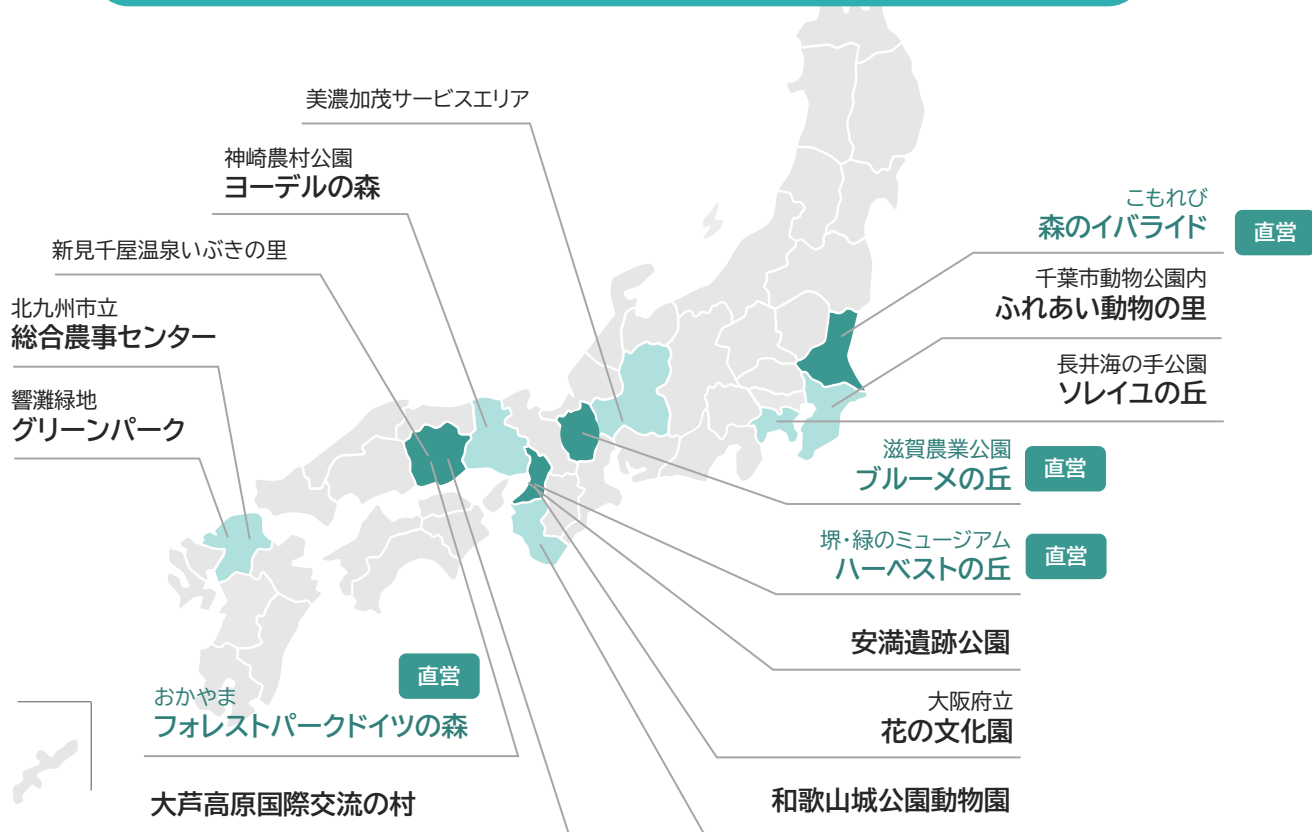


自家製のソーセージ、菓子、ビールなどの製造・販売も行う

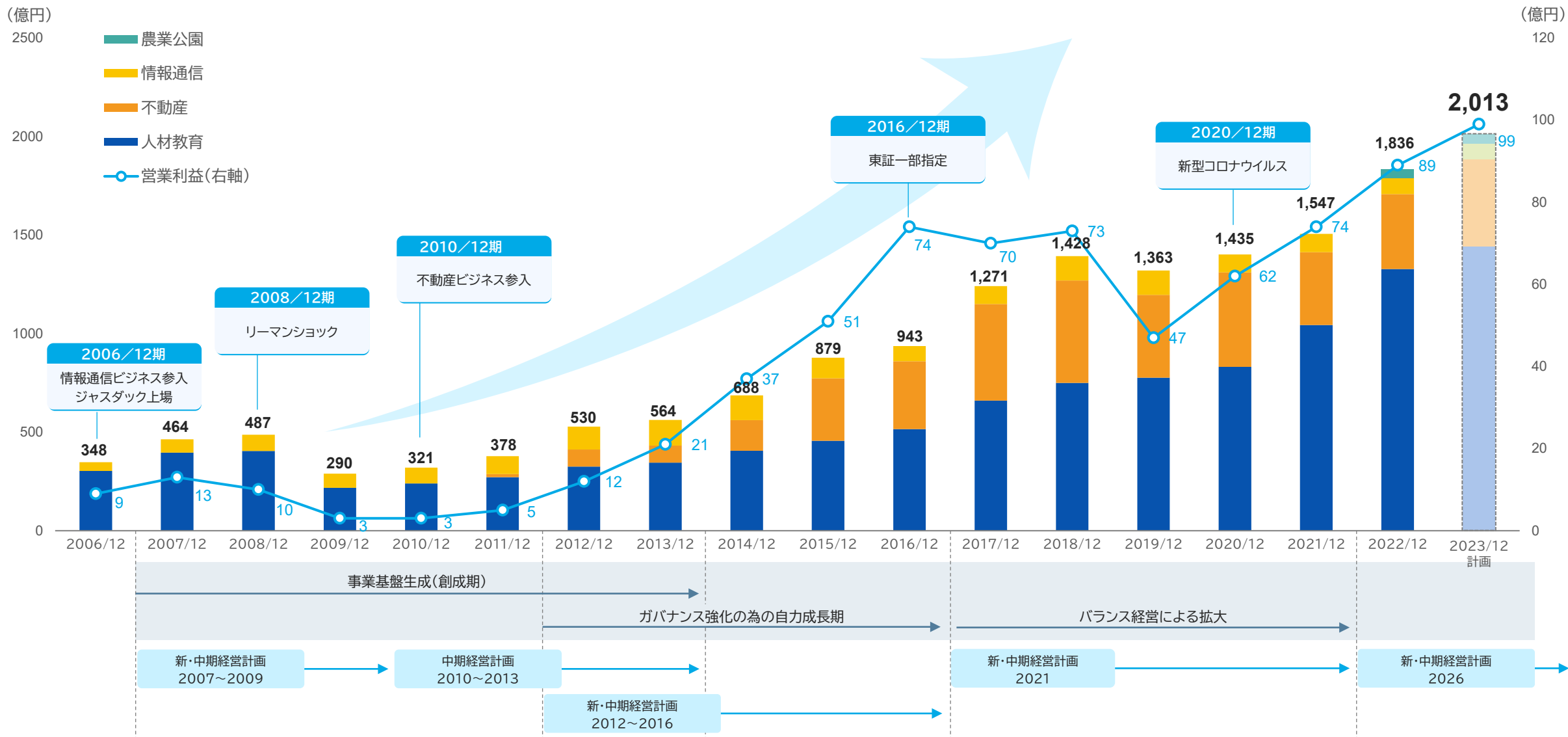
全国15か所で自然あふれる農業公園等を展開

直営施設4か所と指定管理・業務受託等 計15か所の運営

地域に密着し、地域経済・雇用にも貢献



業績推移



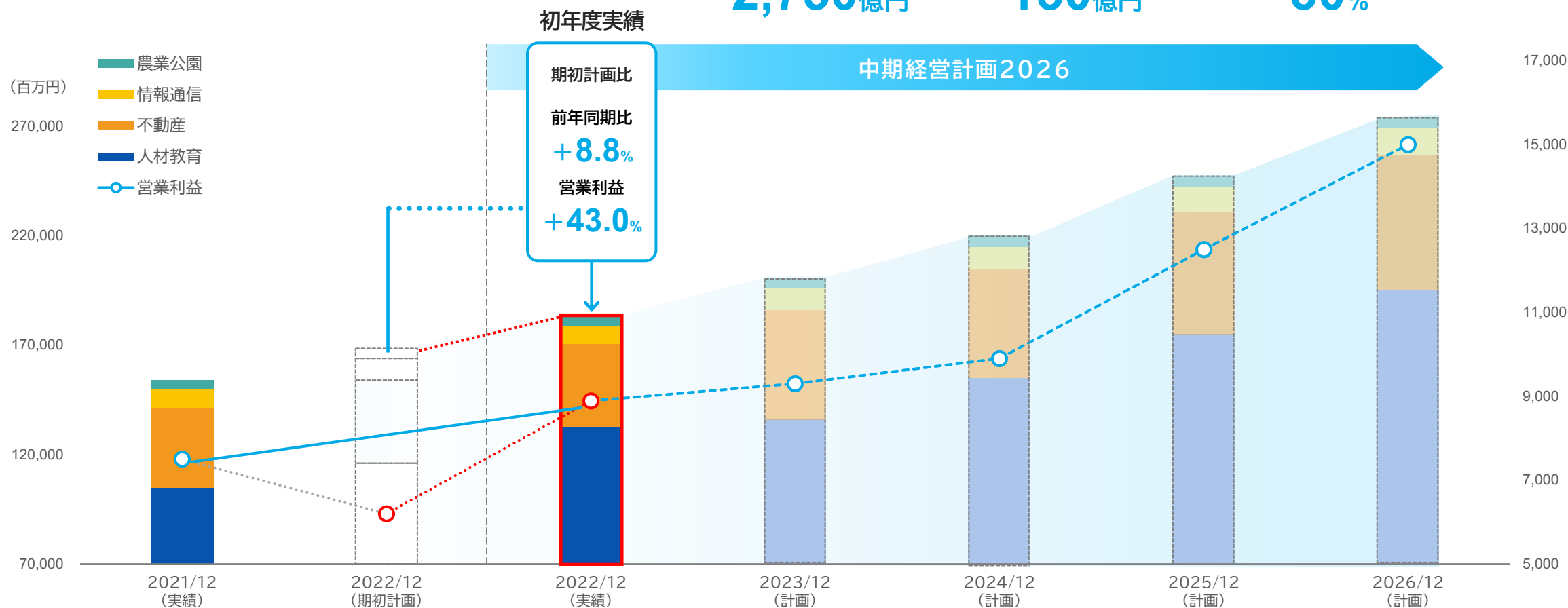
注) 2021/12実績までは旧セグメント区分で、2022/12計画は新セグメント区分で表示

中期経営計画について

昨年度計画1年目として順調なスタート

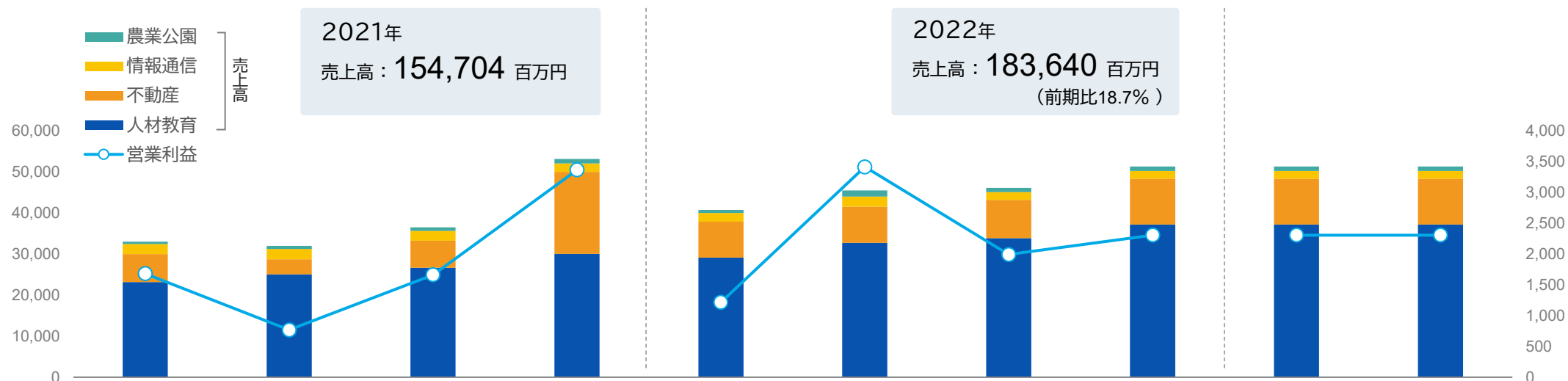
- 複数事業によるポートフォリオが奏功
- 人材教育が全体を牽引

2026年度連結数値目標		
売上高	営業利益	配当性向
2,750億円	150億円	30%



参考:2021-2023 2Q業績 四半期推移

売上高・営業利益の推移 (百万円)



	2021/Q1	2021/Q2	2021/Q3	2021/Q4	2022/Q1	2022/Q2	2022/Q3	2022/Q4	2023/Q1	2023/Q2	
売上高	人材教育	23,199	25,042	26,684	30,066	29,113	32,741	33,861	37,164	33,934	35,435
	不動産	6,783	3,697	6,587	19,908	8,735	8,815	9,337	11,155	7,027	7,498
	情報通信	2,443	2,501	2,351	2,070	2,157	2,436	1,882	1,923	1,948	2,217
	農業公園	605	773	863	1,124	704	1,502	1,056	1,050	813	1,585
セグメント利益	人材教育	888	982	1,009	1,119	1,280	1,317	1,490	1,091	932	874
	不動産	740	△340	513	2,063	△57	1,644	491	1,102	906	357
	情報通信	4	89	39	△14	△37	113	△23	72	△69	85
	農業公園	△68	△26	△28	102	△89	273	△39	13	△117	241
	営業利益	1,682	769	1,663	3,366	1,214	3,415	1,992	2,307	1,934	1,750

本資料に関するお問い合わせ



**WORLD
HOLDINGS**

本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。

また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更される事があります。

万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。

株式会社ワールドホールディングス
広報IR室 室長 西原 範朗

☎ TEL 03-3433-6005

✉ E-MAIL irinfo@world-hd.co.jp

🌐 URL <https://www.world-hd.co.jp/>